

岡山県 子ども・福祉部 子ども未来課

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業 実施報告会

「少子化対策地域評価ツール」を活用して

参加市町村 井原市 高梁市 新見市 美作市 早島町

2025.03.19

プログラム

- 01** バックアップ事業概要と実施してみての成果・課題2
- 02** 事業検討フロー（ワークショップフロー）概要.....21
- 03** 令和6年度参加市町の成果報告51
- 04** 令和5年度参加市町の実施状況121

01

バックアップ事業概要と実施してみた成果・課題

岡山県の概要

山陽道の中央に位置し、東は兵庫県、西は広島県に隣接。
南は瀬戸内海を臨んで四国に、北は山陰地方と接しており、中四国地方の交通の要衝として古くから重要な位置にある。

総面積

7,114.77 km²

総人口

1,851,125 人 (R6.1)

世帯数

870,444 世帯 (R6.1)

合計特殊出生率

1.32 (出生数11,575人) (R5)

未婚率
(25~39歳)

男性 48.4 % 女性 37.2 % (R2)

有配偶出生率
(15~49歳)

76.9 (対1000人) (R2)

特徴

降水量1mm未満の日数が全国1位で、「晴れの国」と呼ばれるほど晴れの日が多い



市町村が抱える課題

- ・少子化対策を担う部署や部局横断的組織がない市町村も存在
- ・担当者は多岐にわたる業務を兼務しているため、少子化対策に十分なリソースを割けない
→少子化の要因分析ができていない、対策を検討する人的な余力がない等の課題が頻発
- ・事業構築や交付金活用等のノウハウの蓄積が少ない

県が抱える課題

- ・出生率等に関連する指標の状況は地域によって大きく異なるため、要因や課題にも地域差があり、画一的な対策では限界がある
- ・市町村に比べ、地域の実態に即した対策の実施が難しい
- ・少子化対策は、「できることは、すべてやる」という強い意志で取り組みたい



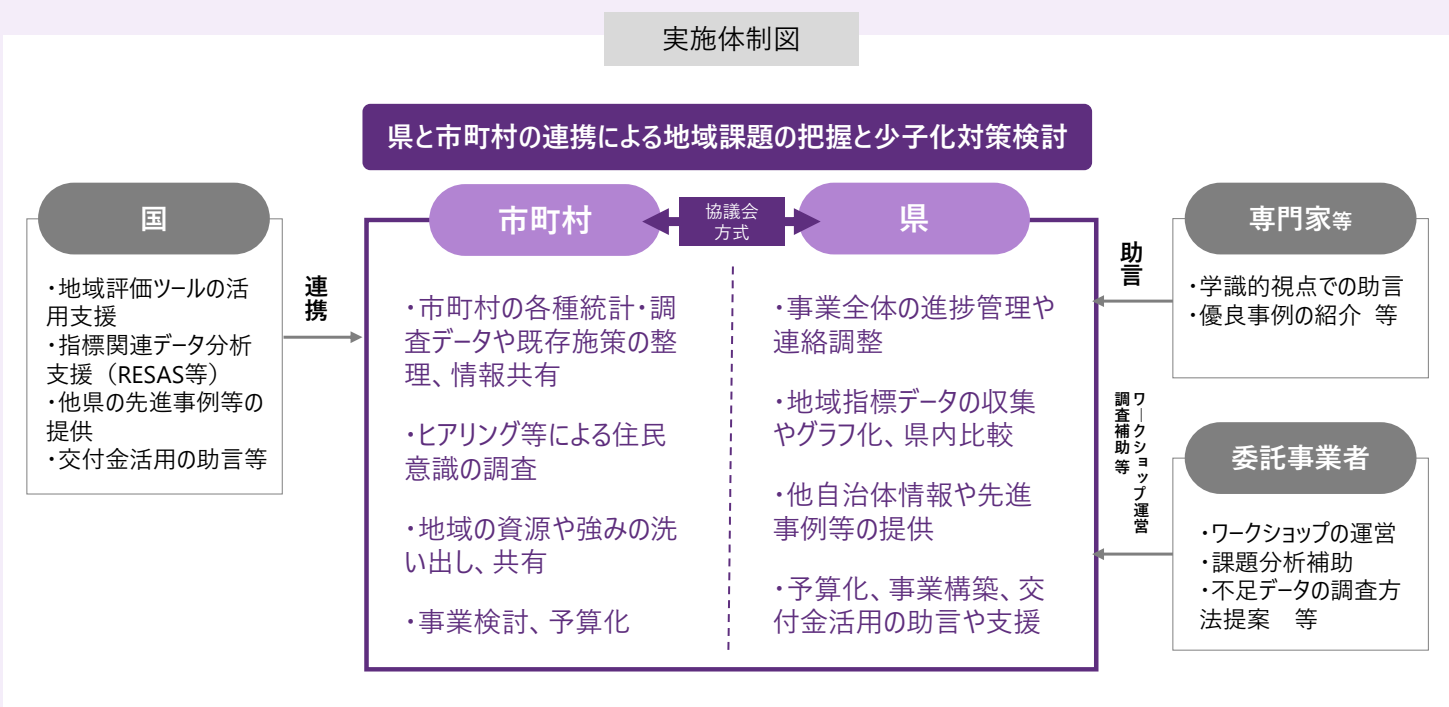
実施目的

少子化の要因や課題は地域によって異なるため、**県と市町村が力を合わせて、少子化の要因等を分析し、オーダーメイド型で対策を検討**することにより、**各地域の実情に応じた効果的な少子化対策の推進**を図る。

実施体制と役割分担

国、専門家、委託事業者とも連携することで、県や市町村だけでは不足しているリソースやノウハウをカバーできるバックアップ体制を構築

実施体制図



Okayama Prefecture



 岡山県
Okayama Prefecture

Okavama Prefecture

早島町	こども未来課	係長
	こども未来課	主任
	こども未来課	主事
	企画課	課長
	企画課	主任
	企画課	主事
	整備計画課	係長
国 オブザーバー	新しい地方経済・生活環境創生本部 こども家庭庁長官官房少子化対策室 中国経済産業局	
岡山県	子ども未来課	少子化対策班
	備中県民局	福祉振興課
	備中県民局	高梁地域事務所
	美作県民局	福祉振興課
委託事業者		(株) 大広
専門家		広島大学教授 柴田 浩喜 氏

心がけたこと

今回の事業を進めるにあたり、心がけたこと。

- ✓ 「言うだけ伴走」にしない
- ✓ 各市町村の自走を目指す
- ✓ 市町村との関係性を深める

本事業の成果や意見等

市町へ提供・発揮できた価値に加え、県としての学びが多くある事業となった。

事業価値・成果

地域課題・住民課題を起点に情報を体系的に整理し、事業立案につなげられた
(+ そのプロセスを実践を通して学べた)

住民の生の声を聞くことにより、解像度の高い課題把握と少子化対策を検討するチームの共通の指針をつくることができた

県・市町村の特性・強みをもとに、それぞれの立場で取り組むべき課題や施策が見えてきた

成果に関連した市町村からの意見等

「闇雲にすすめる従来型事業立案とは、一線を画した手法で新鮮だった」
「ワークで取り組んできた内容を組み立てることで事業案ができる、この手法を知ることができたことが有意義だった」 など

「アンケートでは体感できない、住民の価値観の変化を自分事で理解できた」
「住民の生の声を聞くことで、改めて行政職の重要性や仕事のやりがいを感じる事ができた」 など

県におけるメリット

市町村の現場感や地域課題の違いを把握することで、広域的に対応することで効果を発揮しやすい事業（結婚支援、企業連携、気運醸成など）の立案につながった。

県で立案した事業①（結婚支援）

● 結婚応援アンバサダー

R6新規



県ゆかりの著名人
「近藤千尋さん」を
アンバサダーに任命



● おかやま結婚応援パスポート事業

R6新規

結婚を予定しているカップルや新婚夫婦が、
料金割引等の各種サービスを受けられる事業

県で立案した事業②（企業連携）

● おかやま子育てしやすい職場アワード

R6新規

積極的・独創的な子育て支援を実施している企業を表彰
※奨励金100万円



● 企業版子育て支援ポータルサイト

R6新規

支援制度や優良事例等の企業向け専用サイト

県で立案した事業③（気運醸成）

● 子育て家庭留学 R6新規

若い世代が、子育て家庭を訪問し、
子どもとの触れ合いや先輩ママ・パパと交流



参加費
無料

結婚や子育てのリアルを学ぶ
1日体験型プログラム

子育て家庭留学 in 岡山県

令和6年度「子育て家庭留学プログラム」



岡山県内の子育て家庭に訪問することができる体験型プログラム「子育て家庭留学プログラム」

「子育て家庭留学」について、
詳しくはこちら→



● 同窓会等開催支援事業 R6新規

同世代の若者の交流を支援し、「結婚への関心」の喚起、
「出会いの機会」の創出、「Uターン・定住」の促進

集まろう、
話そう、
昔のように。

SNSなどつながっている時代だからこそ
同じ場所と同じ時間を過ごした仲間たちと
久しぶりに会って、話してみませんか。
きっと、みんなあの頃の自分に会えることでしょう。
そして新しい未来も迎えるかも。

同窓会、
みなさんも
やってみませんか？



岡山県 子ども・福祉部 子ども未来課

※一部市町村では、同窓会への参加を要請しています。
実施市町村は県ホームページをご覧ください。

地域少子化対策重点推進交付金の状況

令和5年度の状況（当初ベース）

申請額 134,278千円
うち 市町村事業 47,130千円
(18/27市町村が活用)

活用状況

①結婚新生活事業 連携コース 14市町村
一般コース 1市町村

②広域連携事業：1事業 ※2市が活用

事業内容：広域での婚活イベント

令和5年度実績

交付金額 147,754千円
うち 市町村事業 47,156千円
(22/27市町村が活用)

令和6年度の状況（当初ベース）

申請額 233,161千円（対前年比174%）
うち 市町村事業 65,868千円
(22/27市町村が活用)

活用状況

①結婚新生活事業 連携コース 16市町村
一般コース 0市町村

②広域連携事業：4事業 ※7県市町村が活用

事業内容：他自治体とのアプリ連携
：広域での婚活イベント

令和6年度（令和7年3月時点）

申請額 241,065千円
うち 市町村事業 72,473千円
(22/27市町村が活用)



令和7年度の状況（事前協議中）

協議額 **288,220千円（対R5年度比215%）**
 うち 市町村事業 85,573千円
 （**26/27市町村が活用**）

活用状況

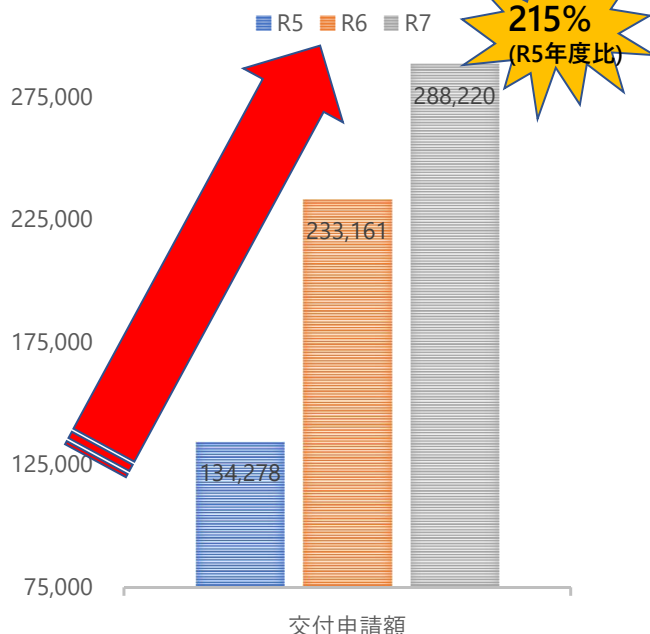
①結婚新生活事業 連携コース 18市町村
 一般コース 0市町村

②広域連携事業：**5事業** ※**13県市町村が活用**

事業内容：機運醸成イベント（フォトコンテスト）
 ：出会い・婚活イベント
 ：子育て応援アプリ等DX化



交付申請額の推移



実施して見えてきた本事業の課題

事業価値が見えてきた一方で、事業の課題も浮き彫りになってきた。

課題①

客観情報だけでは地域の独自課題が見えてこないことがある

- └同一地域・同一規模の市町村だと客観的な地域な現状が類似するケースも多くなかなか独自課題をとらえにくい
- └客観情報ではよいスコアの市町村については、課題がないように見えてしまう

課題②

多忙な市町村職員に対してワークショップ・ホームワークの負荷が高く、議論が深まらないケースがある

- └必要なプロセスではあるものの通常の事業立案よりプロセスが多いため単純な負荷が大きい
- └ホームワーク等がある1人の担当者に集中してしまい、各役場内で議論を深められないことがある

課題③

県民意識調査の解説やRESAS講座など専門家・国の皆様にしていただいた講義の事業検討への活用方法が各参加者まかせになってしまった

- └講義内容とワーク内容が直接的に連動していなかったため、伺ったお話を各参加者が噛み砕き事業検討に活用していく必要があった
- └RESAS研修は実施時期がDay2の後になってしまったため、より活かせる地域の現状把握のワークおよびホームワークの際に活用することができなかった

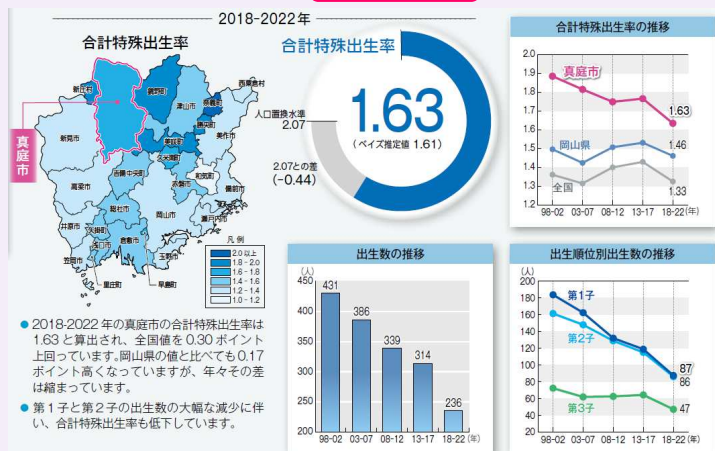
事業のブラッシュアップ（１）

ようこそ晴れの国 おかやまへ

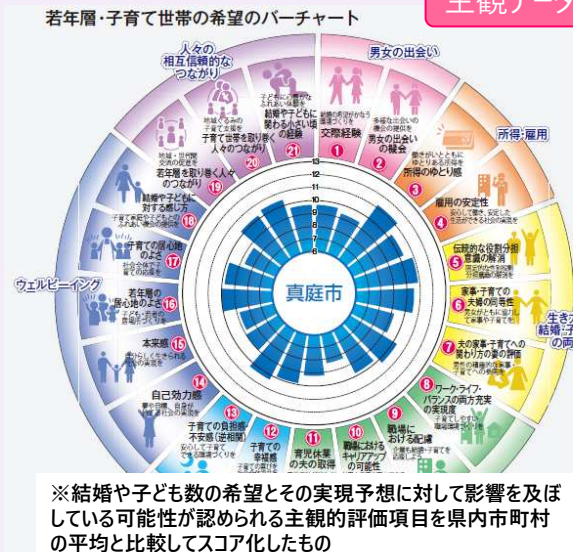


地域評価ツールのデータに加え、
本年度作成中の『客観データの見える化ツール』と『主観データの見える化ツール』を掛け合わせ、
新たな「岡山県版少子化対策イシューマップ」を作成し、課題把握等に活用する

客観データ



主観データ



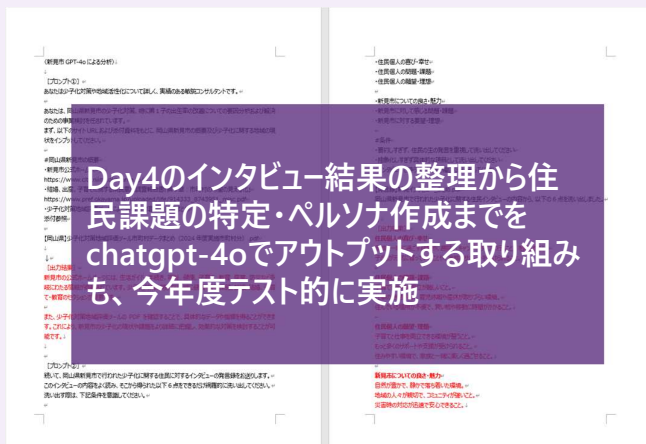
客観情報と主観情報のつながりを意識して構造化（Aというまちとしての客観的不足があるから住民のBという主観的不安につながっている等）したうえで、客観・主観両面で現状や要因・課題を把握し、インタビューでさらに深ぼって仮説検証～事業立案していくプロセスを想定

事業のブラッシュアップ（２）

ようこそ晴れの国 おかやまへ

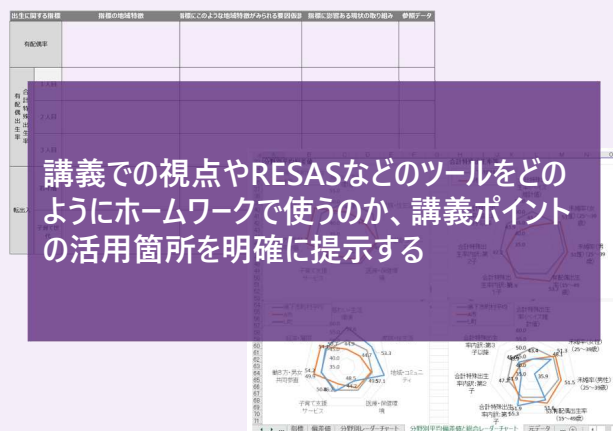
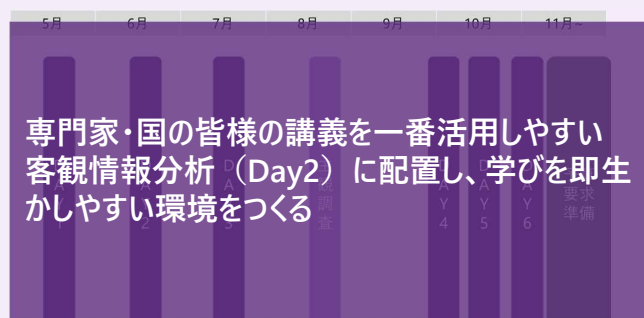


ワークショップやホームワークに生成AIを活用し、参加する市町の負担を軽減する。これにより、課題把握漏れや検討のさらなる精緻化を図る。



生成AIをひとりのワークショップ参加者としてとらえながら、必要に応じてホームワーク等で活用することでワーク負荷の低減や視点の固定化を防止する。
（正解探しのAI活用ではなく、視野を広げるためのAI活用）

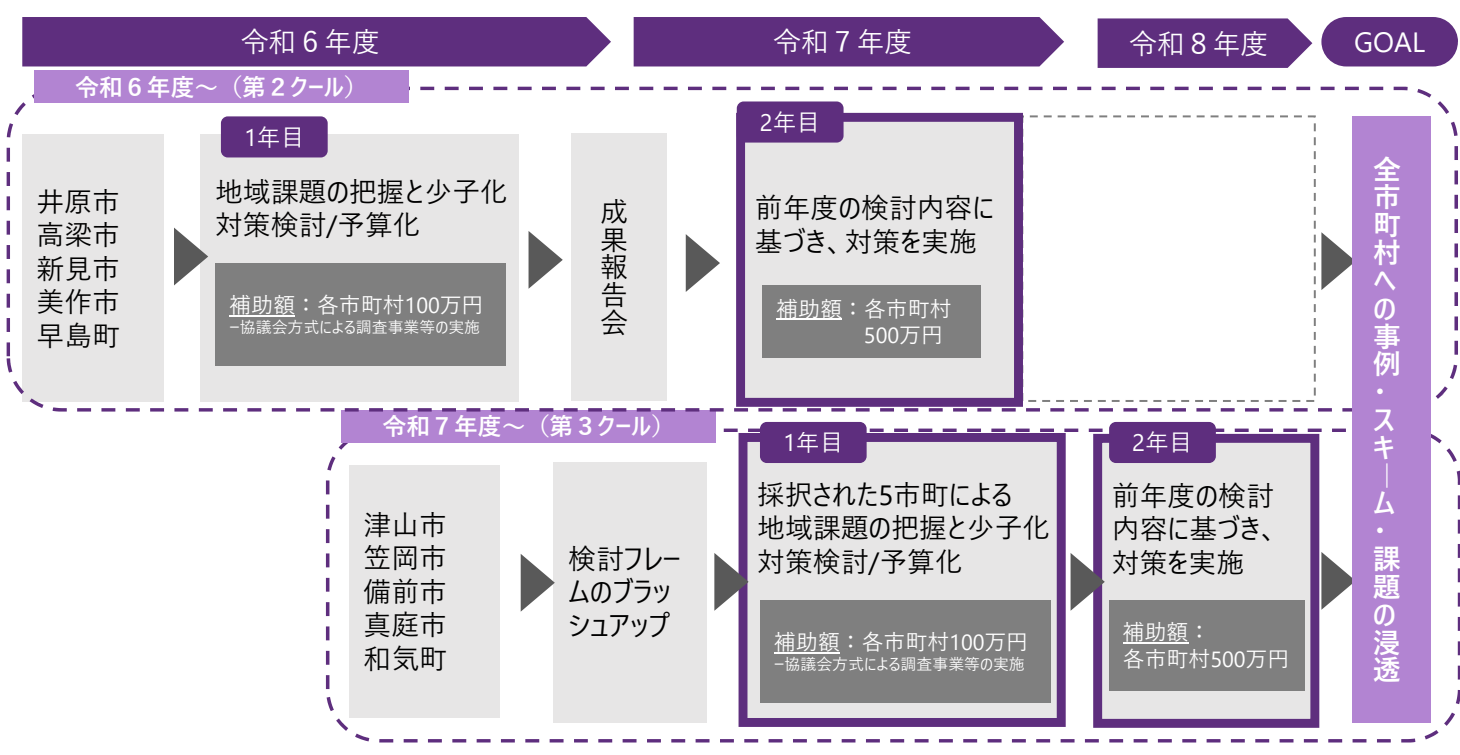
専門家や国の皆様からの講義内容を踏まえた、ホームワークの実施やワークシート形式など、講義とワークプログラムの連携を強化する。



講義での学びをダイレクトにワークに活かせる、プログラムに再設計することで、多様なセクターによるバックアップ体制の効果最大化を目指す。

今後の展開

令和7年度 (第3クール)は、新たに5市町を採択し、地域アプローチによる検討を行う。



国のセミナー等での先進取組としての事例発表や、地域少子化対策重点推進交付金の概算要求（重点メニュー）に好事例として掲載いただくなど、取組が全国に広がっている。

第4回 番外編

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」分科会
事例紹介セミナーのご案内

誰かが居場所と役割のあるコミュニティを目指す全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」分科会の活動の一つとして、既に取組を進めている地方公共団体や民間事業者の取組を幅広く紹介するセミナーを実施します！（金曜開催予定）

第4回は、番外編として「少子化対策」に取り組む地方公共団体の事業導入に向けたプロセスや、都道府県と市町村の連携などについてご紹介いただく予定ですので、具体的な取組の進め方をお聞きしたい方はぜひご参加ください！

開催予定

開催日時 10月2日(水) 14:00 ~ 15:30

開催方法 オンライン (zoom)

14:00~14:15	開会・概要説明
14:15~14:40	地方公共団体の取組事例① 岡山県 少子化対策に挑戦する新時代バックアップ事業の取組と成果 岡山県では、国が作成した「少子化対策検討評価ツール」を元に「地域アップロード」による少子化対策に取り組んでおり、昨年度から県内市町村のバックアップ事業を開始しています。本事業の取組内容、そこから得られた気づきや課題などについてご説明いたします。 事業の概要や導入までのプロセスなどについてご説明いたします。 御参加における少子化対策や子育ての取組を検討する地方公共団体にとって有益です。
14:40~15:05	地方公共団体の取組事例② 岡山県 矢野町 県との連携による少子化対策事業の検討と取組プロセス 岡山県では、昨年度、岡山県の少子化対策バックアップ事業に参加し、子育て支援センター開設を事業化しました。この事業は、地域住民のみなさんに活用していただきながら少子化対策に取り組むことにより、「生涯活躍のまち」を実現する事業です。今回は、事業の概要や導入までのプロセスなどについてご説明いたします。 御参加における少子化対策や子育ての取組を検討する地方公共団体にとって有益です。
15:05~15:20	質疑応答
15:20~15:30	今後のご連絡・閉会

重点メニュー⑤（補助率2/3）
～ICT活用・官民連携等による結婚支援等の更なる推進のための調査研究～

地域の実情・課題に応じてこれまで行ってきた結婚に対する取組や、結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくり・気運醸成の取組などの少子化対策について、その影響や効果を再点検し、翌年度以降の効果的な事業の実施につなげる取組

<取組例>

①調査研究の企画

- 地域の実情・課題を踏まえて、どのような調査研究を行う必要があるか検討。
- 調査研究の結果を活用して、どのように地域の結婚支援等の推進につなげるか意図において調査研究の内容を決定。

（調査研究の内容例）

- ・ChatGPTなどの生成AIを初めとするデジタル技術を活用した新たな結婚支援等のあり方の調査検討
- ・民間事業者と連携した効果的な結婚支援等の研究
- ・自治体の結婚支援等に関する取組の影響や効果に関する調査・分析
- ・マッチングシステムの効果検証 等

②調査研究の実施

- 有識者会議を開催し、有識者や民間事業者等から意見聴取
- 人口動態統計、国勢調査など様々な統計データ等の収集分析
- 地域住民の結婚や子育てに関する意識調査
- 民間事業者と連携した結婚支援等の方法を開発・実証 等

③調査結果を踏まえた戦略づくり

- 調査研究の結果の見える化のため、報告書等を作成し、地域住民へ情報提供
- 調査研究の結果を踏まえ、地域における少子化対策の効果を上げるための戦略を策定
- 次年度以降の効果的な事業の実施に反映

「地域少子化対策評価ツール」を活用した少子化対策調査検討事業の様子（岡山県）

【主な対象経費】 有識者への諸謝金、データ等収集分析費、アンケート調査費、報告書作成費 等

○他県でも岡山県の取組を参考にした事業等を実施

・岩手県：令和6年度から実施中 ・鳥取県：令和7年度から実施予定

その他、視察や問い合わせ等は複数あり

02

事業検討フロー（ワークショップフロー）概要

事業検討は「少子化対策地域評価ツール」を活用した「地域アプローチ」を前提にしつつ、分野横断・EBPMといった本ツールの狙いや価値が最大限発揮されるよう、一部カスタマイズをしたオリジナルフローにより実施

「地域アプローチ」による少子化対策の取組プロセスについて

少子化対策地域評価ツールでは、地方公共団体による「地域アプローチ」による少子化対策の取組を6つのSTEPに分割して紹介しており、それを支える都道府県の役割についてもまとめている

- ✓ 地域評価ツールでは、「地域アプローチ」による少子化対策の取組について、市区町村が行う場合を想定してSTEP1～6にわけて各プロセスでの取り組み方や実践事例を紹介しているほか、それを支える都道府県の役割・取組内容についてもまとめている

「地域アプローチ」による取り組み方について



<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/chiikiapproach/index.html>

検討フローの重視点

検討フローは、以下4つの視点を重視し「少子化対策地域評価ツール」をカスタマイズ

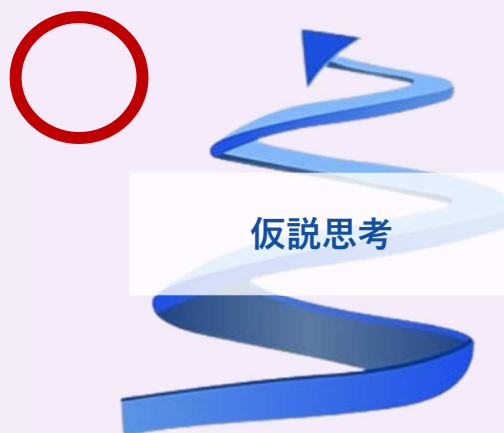
- ✓ 参加メンバーの**当事者意識の醸成**に重きを置いたワーク設計
- ✓ 課題の**連鎖性**に着目し、各地域の**独自課題**を構造的に把握・見える化
- ✓ 住民の思い/課題/欲求を起点においた、「**住民を中心とした発想**」による事業検討
- ✓ 参加者が活発的に意見を交わし、アイデアを出しやすくするための**仕掛け**と**フレームづくり**

事業検討で重視した考え方

今回のプログラムでは着目する地域課題やその要因や解決方向性を**仮説**として設定していくことを重視し、間違っていたらまた修正すればいいというスタンスで、勇気をもって判断・前進することを意識しながら進行。



毎回毎回情報を網羅的に検討し、正しさを積み上げながら最終1つの事業をつくりだす
→正しいと確定しないと前に進まない・判断をしない



毎回毎回手元にある情報をもとにその時の最適解（＝仮説）をたて、それを検証し、仮説を調整するを繰り返しながら最終1つの事業をつくりあげる
→とりあえず今ある情報でわかることで判断し前に進んだ後に修正する

検討フローの全体像と各日程の目的

計6日のワーク（各回 3 時間程度）とインタビュー調査、各回のホームワークにより事業検討を実施

少子化対策
地域評価ツール
の該当STEP

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

Day1
in 高梁市

ホームワーク

Day2
in 早島町

ホームワーク

Day3
in 岡山市

主観調査
インタビュー
in 各市町

ホームワーク

Day4
in 井原市

ホームワーク

Day5
in 美作市

ホームワーク

Day6
in 新見市

- ・ ワンチームでのプロジェクト進行・事業検討していくための**共通認識づくり**
- ・ 主体的・積極的な関与を促すための**当事者意識の醸成**

Day1.5 県民意識調査の解説

- ・ 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
- ・ 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**

Day2.5 RESAS講座

- ・ 取り組むべき課題の達成に向けた**探索事項（インタビュー設計）の決定**

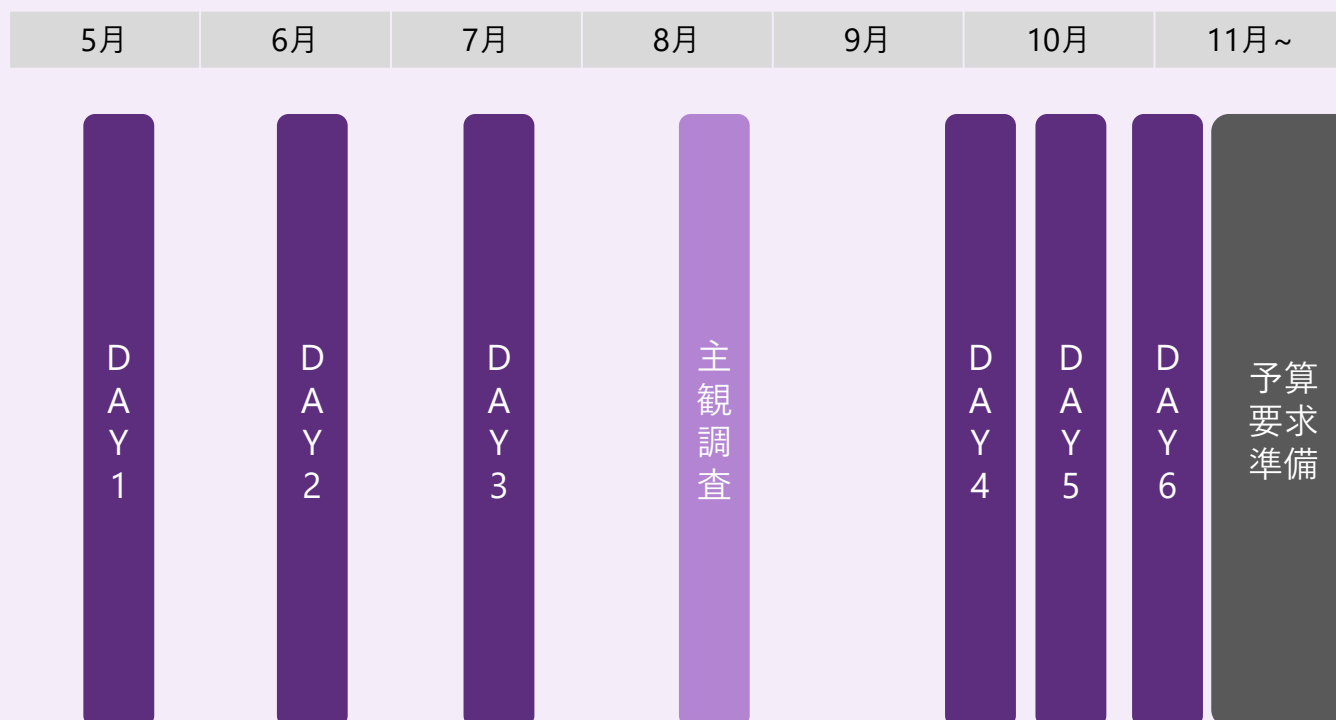
- ・ 住民の**思い・課題・価値観の探索**
- ・ 住民の声を起点とした、**課題解決方向性の探索**

- ・ 住民の声から見てきた**課題解決方向性（解決すべき事象）の整理/設定**

- ・ 課題解決方向性を踏まえた**事業アイデアの構想・策定**

- ・ 効果・実施難易度を踏まえた**優先検討事業の設定**
- ・ 今までの議論内容の整理に基づいた**簡易事業計画の作成**

検討スケジュール（令和6年度（第2クール））



Day1のワーク内容



Day1のゴール

- ワンチームでプロジェクトを進行していくための**共通認識づくり**
- 全員が主体的・積極的に取り組むための**当事者意識の醸成**



ワーク内容

プロジェクト説明

プロジェクトの実施背景や全体像、計6回の進め方に加え、大事にしていきたい考え方や姿勢なども説明し次回につなげた。

「SDGs de 地方創生」体験

持続可能な地域のつくり方を理解するゲーム型プログラム「SDGs de 地方創生」(©issue+design)を実施。
本プログラムを通し、

- ・地域課題は複雑に絡み合い連鎖している点
- ・地方創生には様々なセクターとの対話・協働が重要な点
- ・自らの行動・選択1つでまちを変える力を持っている点等を体感してもらうことで、その後の5回のワークショップの根幹となる考え方のインプットや共通認識の獲得を狙った。

Point

- 今後の事業検討の根幹となる考え方や姿勢を、**ゲーム型プログラムを活用することで“体感”**してもらう
- あえて5市町混在したチーム編成でコミュニケーションが必須なプログラムを実施することで、アイスブレイクを兼ねながら市町を飛び越えた**プロジェクトメンバー全員の一体感の醸成**をしていく

「SDGs de 地方創生」とは...

特定非営利活動法人イシュープラスデザインが開発したSDGsの考え方を地域の活性化に活かし、地方創生を実現する方法について参加者全員で対話し、考えるためのゲーム。

規定の研修を受講した公認ファシリテーターのみが本ゲームを活用したワークショップを実施できる。

<https://sdgslocal.jp/>



ゲームの3つのポイント

POINT①

行政担当者、または住民として



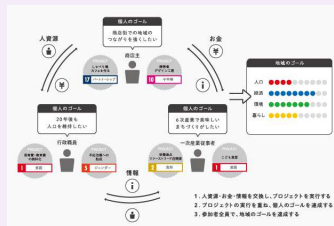
SDGs de 地方創生ゲームの参加者は各地域で活躍するプレイヤーにわとしてそれぞれの役割を演じていただきます。行政担当として4つの役割があり、まちで活動する市民として12の役割があります。

行政担当者には毎ターン予算が配られ、まちを良くすることをゴールとして提示されます。まちで活動する市には、使える予算は限られていますが、代わりに普段の活動を通して得られる人脈があります。

どのように活動し、どのようにまちに働きかけていくか。それはゲームに参加する参加者ひとりひとりに委ねられています。

POINT②

まちの現状をあらわす4つの指標



SDGs de 地方創生ゲームではまちの状態は「人口」「経済」「環境」「暮らし」という4つの指標で表されます。何も具体的な対策をしないでいると、人口は徐々に減少をはじめます。

経済はまちの財政に影響を与え、まちに緑が少なかったり、暮らしやすいまちでなければ、様々な施策をしても十分な効果を発揮しません。

20年後も豊かに過ごせるまちとなるのか、それとも残念ながら消滅可能性が高い都市になるのか。それはゲームに参加したプレイヤーひとりひとりの行動によって千変万化いたします。

POINT③

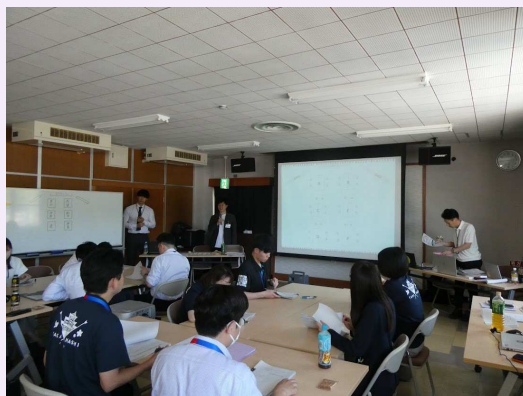
まちを彩る具体的なアクション



しかし、具体的にそれらの施策を実践したときにどのような効果が生じるのか、プレイヤーには明かされていません。まちに良い影響をもたらすのか、期待はすれにおわるのか、はたまた、まちにネガティブな影響をもたらしてしまうのか。。。自分の行動一つ一つがまちに与える影響を考えながらプレイして頂く必要があります。

また、まちの状況によっては、かつてはできなかったアクションができるようになった、そんなことが起こり得るように作成されています。

Day1の様子



Day1.5

「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査」について専門家からの解説



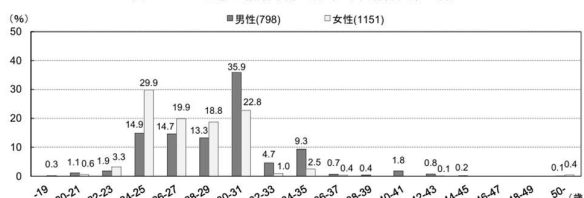
県民意識調査は、令和5年度に県が実施したアンケートを基に「結婚や妊娠・出産、子育てに関する現状や意識」などを分析し、市町村別に県民意識の見える化を掲載した報告書（令和6年3月発行）

Day1.5では、県民意識調査の作成に携わった広島大学の柴田浩喜先生による解説を実施

少子化対策地域評価ツールの客観的データだけでなく、**県民意識調査の主観データ**を活用することにより、精度の高い仮説検証等ができることを説明

参考）理想の結婚年齢の分布

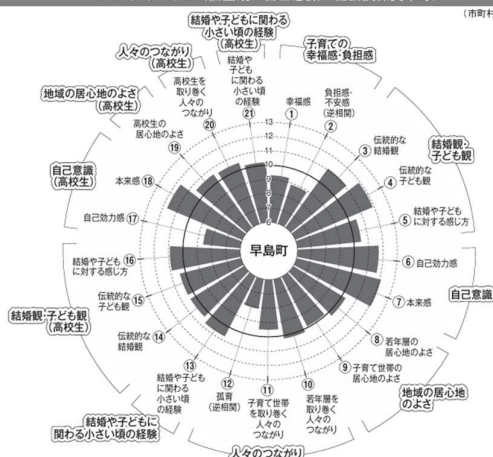
図Ⅲ-2 理想の結婚年齢の分布（未婚者、第一群）



参考）早島町のバーチャート

バーチャート2（価値観・自己意識・社会関係資本等）

(市町村平均＝10)



・早島町では、人々の繋がりが弱く（孤育）と感じている割合が多いなどが読み取れる。

Day2のワーク内容

Day2のゴール

- 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
- 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**



ワーク内容

ホームワーク

地域指標に基づいた地域特徴・課題仮説・現状の取り組みの整理

少子化対策イシューマップの作成

取り組むべき課題と探索の問いの設定

少子化対策地域評価ツールにおける客観的指標をもとに、各分野の地域特徴・課題仮説・取り組み状況を整理する。



ホームワークで各市町村が整理してきた情報のうち、地域課題に関する項目を付箋に記入し「少子化対策イシューマップ」に配置する。そのイシューマップ全体を俯瞰しながら、関係する情報に矢印を引き、それぞれの相関関係を整理することで、個々の課題がどのように連鎖し少子化に影響を与えているか、客観的指標がそれぞれどのようにつながっているのかを構造的に把握する。

完成した「イシューマップ」を見て、現在の取り組みの有無や客観的指標から見える深刻さ、結び付き課題の多さなどをもとに、ライフステージごとに地域の現状と解決すべき課題を整理。その内容を踏まえて、各町村として目指すべき地域の姿を意思をもって設定したうえで、そのギャップがなぜ起きているのかという「探索の問い（RQ）」と現状における要因仮説・解決方向性仮説を整理する。

- Point**
- 地域指標を別々にとらえるのではなく、その**つながり/連鎖性を意識しながら構造化**することで、市町村を精緻に把握する
 - イシューマップをもとに着目する課題を**早い段階で決める**ことで、課題の探索に時間を使う（着目はしなかったが顕在化している地域課題については各市町独自で対策を検討）

(参考) 少子化対策イシューマップ概要

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

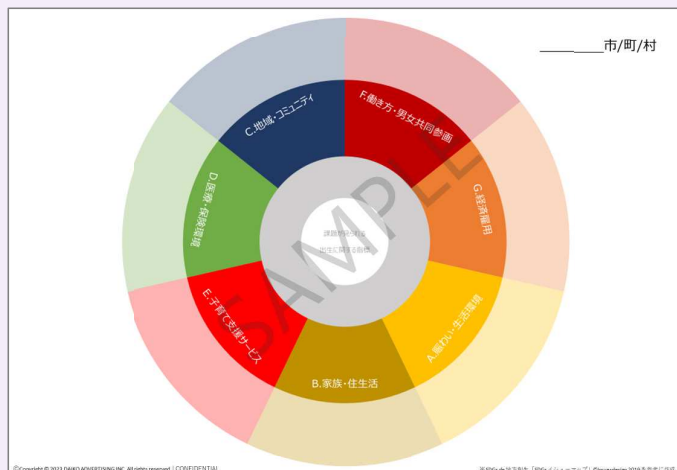
STEP5

STEP6

「少子化対策イシューマップ」とは...

少子化対策地域評価ツールの客観的指標に定められている、「出生に関する指標」「地域指標（「賑わい・生活環境」「家族・住生活」「地域・コミュニティ」「医療・保険適用」「子育て支援サービス」「働き方・男女共同参画」「経済雇用）」に関連性の高いもの同士が近くなるよう円状に並び替えたマップ。

※SDGs de 地方創生「SDGs イシューマップ」©issue+design 2019 を参考に株式会社大広で作成



「出生に関する指標課題」を赤色、「地域指標課題」を黄色、「地域指標課題の結果起こる、住民の“課題や欲求”」を青色の付箋で配置し、それぞれのつながりを整理することで、地域課題を構造的に可視化

(参考) 探索の問いの設定

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

イシューマップで可視化した地域の現状をもとに、着目すべき地域課題と目指すべき地域の姿を設定。そのギャップがなぜ起こるのかという視点で、「探索していくべき問い」の設定と現時点での「要因仮説・解決方向性仮説」を整理する。



市/町/村

なぜ、市/町/村は、
なのかな？

要因仮説
その要因は、
なのではないかな？

解決方向性仮説
その問題は、(対応) することで、
(誰) が、
(状態) になると 解決できるのではないかな？

仮説設定の理由



Day2.5 : RESAS講座

Day2.5

- 地域に関する官民の**様々なデータ**を「見える化」し地図やグラフなど集めた「RESAS」を活用し、地域の強みや課題の把握へ



ワーク内容

- 中国経済産業局の**RESAS調査員による研修**を実施
→各自治体の資料となる「サマリー」を見る際のポイント・注意点などを解説
→他市町村との比較資料として活用でき、地域の現状把握のツールとして活用できる

RESAS(地域経済分析システム)とは

RESAS



※地域経済の長期的なトレンドを把握する

「地域経済分析システム」

Regional
Economy (and)
Society
Analyzing
System

英語表記の頭文字をとって**RESAS**

消費マップ⇒From-to分析 (POSデータ) 地産品の消費地別割合

RESAS



分類を指定して、地産品の消費地をみる事が可能。
飲料・酒類>>アルコール飲料>>清酒 の場合の消費地別割合の比較

[出典]True Data by 株式会社True Data

Day3のゴール

- 対策に取り組むべき課題の決定に向けた**探索事項（インタビュー設計）**の決定

ワーク内容

ホームワーク

少子化対策イシューマップおよび探索の問いの役場内追加議論

Day2で作成した少子化対策イシューマップや探索の問いについて、庁内に持ち帰り共有し、参加メンバー以外も含めて再度議論を深めブラッシュアップする。



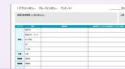
調査で明らかにしたいことの検討

Day2で設定した地域課題や探索の問いをもとに、主観調査（インタビュー調査）で明らかにしたいことを探索的な視点、検証的な視点の両視点から検討。手段ではなく、目的を起点に調査を設計する。



調査対象者の決定

明らかにしたいことを整理したうえで、それを誰に聞くのが最適か対象者を議論する。その際、理想的な対象者の条件と、現実的に集められそうな緩和条件を検討し、調査の目的達成と現実的なリクレーティングをイメージする。



調査設計の検討は適宜調査視点をインプットしながら実施

聴取項目/対象者の深堀・絞り込み

今まで議論した明らかにしたいこと、対象者の中で探索の問いと照らし合わせ優先度が高い者を絞り込む。合わせて、住民は必ずしも答えを言語化できていないという前提に立ち、明らかにしたいことを引き出し、考察するためにどのようなことを聴取すべきか、聴取項目を深掘りする。

- Point**
- 解決したい地域課題や探索の問いをベースに明らかにしたいことをまず検討することで、**目的起点で主観調査を設計する**
 - 住民が必ずしも答えを言葉にできないという前提の中で、**明らかにしたいことを引き出す・考察する**という視点で聴取項目を設計する

Day3の様子



主観調査の内容

主観調査 インタビューのゴール

- ・ 住民の**思い・課題・価値観の探索**
- ・ 住民の声を起点とした、**課題解決の方向性の探索**

ワーク内容

設計に基づいたインタビューフローの作成

Day3で検討した調査設計に基づき、どのような順番・時間配分で、どのように話を深ぼるかのインタビューフローを作成。

結婚観や子育て観など場合によっては、センシティブな内容になるため、住民の方へ最大限配慮しつつ、聞き出したいことを引き出せるフローを検討。

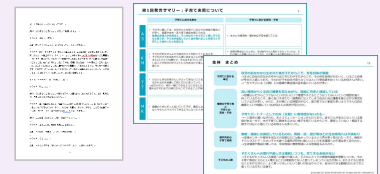
住民インタビューの実施

調査設計・インタビューフローに基づいて
住民インタビューを実施。
(場所は保育園・保健センター・工場
会議室・市役所などで実施)
住民の方へ寄り添いながら、生活の実
態や価値観をはじめ、結婚や子育てに
関する思いや課題・不満など本音を引
き出すインタビューを実施。

令和6年度は、5市町で**計53名**へのインタビューを実施

発言録、インタビューサマリーの作成

インタビュー発言をすべて文字に起こした
発言録とインタビュー内容の中心的な発
言をまとめたインタビューサマリーを作成。
その後のワークショッププロセスに活用。



Point

- ・ モデレーター（インタビュー司会者）は住民の皆さんの味方である姿勢を貫き、日々抱えている本音を話しやすい場づくり・雰囲気づくりを行う
- ・ 市町に対する評価・要望だけでなく、住民一人ひとりの生活（子育て）の様子や結婚や子育てに対する価値観/理想像など語りを重視し聞き出すことで本当に求めていることを考察する示唆を得る

（参考）サマリーイメージ

調査概要	
調査目的（全体）	地産地消問題を解決する少子化対策事業を検討するにあたって、気づき・ヒントとなる声を住民の方から得る
設定した問い	①なぜ少子化が進んでいるのか ②なぜ子育てしたい人が多いのか →（とくに地産地消に関心した）多子を生みづたいことに加え、住環境や生活環境の影響で第1子出生後転出→上記設問をもとに第1子出生後転出の原因を探る。また、高校生の自己意識や結婚・子育ての意識についても把握。
対象者	①美作市内で子育てををする30代女性 ②子育て中で美作市から転出した30代 ③津山市に転出する高校生
調査方法	①グループインタビュー（90分・5名） ②グループインタビュー（90分・3名） ③グループインタビュー（90分・5名）
参加項目	・居住エリア選択の価値観について →住む場所をめぐるとともに意見を交換しているが、その中でやりやめを断る人は、理由はほとんどない ・子育て環境や価値観について →子育てにおいて喜びを感じる人/大変な瞬間 →美作市にどんながスタートをしていて楽しいか →理想の子どもの人数について ・キャリアや今後の理想について →結婚願望について →美作市を離れて →今後のキャリアについて

第3回発言サマリー：対象者プロフィール	
OH	性別：男性（高校2年生） 家族構成：父、母、姉 得意活動：総武水泳部 趣味：YouTube、エンタメ寄りの料理動画。
TY	性別：男性（高校2年生） 家族構成：父、母、姉（別居） 得意：ハンドボール部 趣味：キングダムを読む。
ON	性別：女性（高校3年生） 家族構成：父、母、2人子 得意：路上と壁のスケートボード 趣味：高校野球の応援。兄が野球をしていて野球一家。
MT	性別：男性（高校3年生） 家族構成：父、母、弟2人、妹1人 アルバイト：派遣の販売員 趣味：旅行、映画やテレビ番組など。
TK	性別：女性（高校3年生） 家族構成：祖父、祖母、父、母、弟、妹 得意：卓球部 趣味：YouTube、コムドットをよく観る。インスタグラムはよく見る。

[illegible]

全体まとめ	24
住環境の 課題について	選別後のひとと実用市庁に入るといえるが、条件で満たさずに最終的に選別れない。一階に入るとまきがない、夫の家の家の南の町がある。子供の、他の選別ががないなら、その条件で選別て実用市庁は居る地としてよりてふことが多し。現在、住んでいる人も生活の不便さを上回るものがあることが出た。選別が選別していない。
教育の 子育て環境	教育や入居前の子どもを持つ親の不安感・負担感が強い ・文庫館や図書館・保育園・幼稚園への満足度は高いものの、入居前には子どもも存在を知らずに入居した方から子どもをいかに利用して遊ぶか。実際に子どもを連れてくる。産前産後まで育児でなく、子育て者は身近に頼れる人があらず。知識も乏しきままに育ちます。 ・子育て支援のイメージが他の市よりも薄く、やらせたい感じがして ・実用市の子育て支援としては、上記のもの満足感でも入居した方から子どもも存在を知らずに入居した方から子どもをいかに利用して遊ぶか。実際に子どもを連れてくる。産前産後まで育児でなく、子育て者は身近に頼れる人があらず。知識も乏しきままに育ちます。
実用市の 生活環境	交通アクセスの点で不満があるものの、地域のひととの関係が良好で人の往来が感じられることが出来る。 ・子供の遊び場が公園に近くて子育て者が入居して子供が遊びたい公園や遊び場を見つけて遊ぶことをしることが出来る。一方で、地域のひととのつながりが薄く、数少ない子育て者同士で遊んでいるものが見受けられるような文があるが、あがいてい遊んでいるものもある。
若年層の 将来像について	地味な生活へのつながりがある中では実用市での自分の将来をイメージしやすい ・中学以上になると、学校への満足度はかなり高まり実用市が家になることで日々の地域生活と交流が無くはない。その結果、地域の生活が楽しくなってきたり、地元で地元の人と会う機会が多くなり無く、地元の同級生とのつながりがある。

Day4のゴール

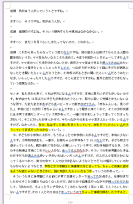
- 住民の声から見てきた課題解決の方向性（解決すべき事象）整理/設定

ワーク内容

ホームワーク

発言録から気になった発言をマーキング

インタビュー調査の発言録から、個人的に興味をもった/面白かった/新しい気付きがあった/重要だと思ったなどの...発言をマーキング



インタビュー内容の構造化

マーキングした発言について、住民個人の「喜び・幸せ」「問題・課題」「願望・理想」とまち自体の「良さ・魅力」「問題・課題」「要望・理想」に分け、配置。その背景が似ているものをグループにしなが、グループ間の関係性を整理することでインタビューを構造化



解決課題カードの作成

構造化から、事業検討にあたり着目したい/重視したい課題や欲求をマーキングし、その課題や欲求をなぜ重視すべきなのか、その背景にどんな思いがあるのかを考察し、探索の問いに関する仮説の精緻化及び事業を通して“誰”の“何”を解決するのかを「解決課題カード」として整理する。



Point

- インタビュー結果をひとくくりの概要でとらえるのではなく、1つ1つの生の発言を重視した構造化を行う
- 住民が抱えている課題、目指すべき理想の姿を検討することで、“誰”の“何”を解決する事業をつくるのかを明確にした「解決課題カード」を設定する

(参考) 解決課題カードについて

事業ターゲット（ペルソナ）とそのターゲットが抱える問題・課題・欲求、そのターゲットの目指すべき理想的な状態を整理するためのカード。

解決すべき課題を住民の問題に置き換えて検討することで、住民を中心にした発想での事業検討を行えるようにする。

解決課題カード

市町

ペルソナ（事業ターゲット）※要因仮説の深堀

性別 年齢 その他特徴

状況

抱えている問題・課題・欲求

住民/まちの理想の状況 ※解決方向性仮説

©Copyright © 2023 DAIGO ADVERTISING INC. All rights reserved. | CONFIDENTIAL

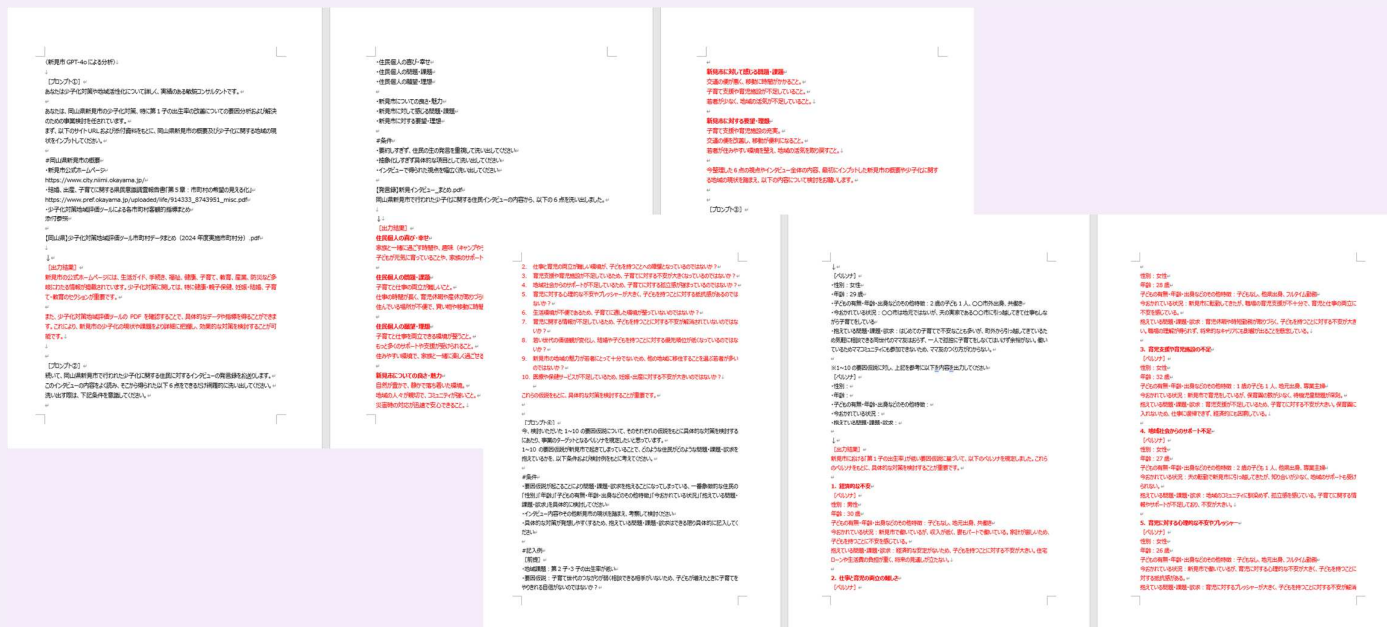
(参考) 生成AIによる分析支援



インタビューでの発言の整理から探索の問いの精緻化、解決課題の設定・ペルソナ設定までのワーク内容をプロンプト化し、ChatGPTに分析（出力）させた結果も参考資料として活用。

生成AIを1人のワークショップ参加者としてとらえ、答えではなく新たな視点や抜けている視点がないかを確認した

※クロードの環境のプレイグラウンドを使用し、情報漏洩には最大限配慮



Day4の様子



Day5のゴール

- 課題解決方向性を踏まえた**事業アイデアの構想・策定**

ワーク内容

ホームワーク

地域資産カード作成

Day4で設定した解決課題も踏まえながら、各市町の活用できる地域資産や地域の強みを洗い出し、地域資産カードを作成する。地域資産は施設や制度、サービスだけでなく、文化・風土・雰囲気なども洗い出す。

解決課題起点のアイデア出し

イシューマップ・インタビュー結果に基づいて作成した、解決課題カードをもとに、ストレートに考えられる事業アイデアについて、既存事業の改善アイデア、新規事業アイデアの2つに分けながら構想する。

地域資産起点のアイデア出し

地域資産カードをもとに地域資産を活用できることや現在足りていない要素を考えながら、さらに事業アイデアを構想する。その際に、この資産を使ってこの課題を解決しようと思ったら何ができるかという**「強制発想法」**を使ってアイデアだしも行う。

事例からの気づき
起点のアイデア出し

全国の自治体・企業の実践事例を整理した事例カードをもとに、先進事例等の視点を共有し、さらにどのような事業が考えられるか構想する。事例カードをそのまま転用・利用できないかという考えだけでなく、**考え方の活用や、既存事業と組み合わせ**できないかという視点で事業アイデアを構想する。

- Point**
- 解決課題・地域資産（強み）・事例を**カードにして情報を見える化し、整理することで、その場ですぐ理解できる組み合わせや新たなアイデア発想**をしやすいとする
 - 解決課題・地域資産・事例を一気に提示するのではなく、発想の広がりを助ける

(参考) アイデアだしワークシート

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

縦軸に少子化対策地域評価ツールの「地域指標」、横軸に「解決課題カード」を配置し、それぞれに該当する事業アイデアを新規事業、既存事業の改善等で色分けしながら、付箋で貼っていくことで、住民の課題を意識した事業検討を行う。



(参考) 地域資産・事例カード例

STEP1 STEP2 STEP3 STEP4 STEP5 STEP6

参加市町の地域資産や、全国の自治体・民間事業者の取組事例をカード化（200以上の事例を収集）

地域資産カード 井原市

ふるさと井原
“夢&志”アクション助成

「ひとびとの事業」の一環として、新たに「夢(ゆめ)と志(こころ)アクション助成」を立ち上げ、中学生から若手社会人までの若者たちの一歩を資金面で支援する取組。1組あたり最大10万円を助成。

A. 賑わい・生活環境 サービス・制度

地域資産カード 高梁市

高梁市図書館

2017年にオープンした。備中高梁駅直結で、高梁観光案内所も併設しており、高梁市の観光入札に資する情報やパンフレットがらえます。お土産や高梁の特産物も販売されています。農産物直売店とスターバックスコーヒーもあるので、読書に没頭しながら美味しいドリンクを飲めたり、電車待ちにコーヒーも注文したりすることができます！

A. 賑わい・生活環境 施設・場所

地域資産カード 早稲町

街の住みこちランキング1位

大車建社（株）が実施する「街の住みこちランキング」岡山県版で2024年現在、4年連続1位を獲得している（中国地方では2位）。交通の利便性や行政サービスが高く評価されている。

A. 賑わい・生活環境 その他

地域資産カード 津和野町

愛の村パーク

深い緑と季節の花々に囲まれた後山の麓にある観光施設。遊園地から「あひれ」レストランのある本館が、宿泊も可能です。また、屋外には遊具広場、芝生広場、コテージ村「ハーベストの家」があります。周辺を散策したり、遊具広場、芝生広場では思いっきり体を動かして遊べます。

その他 施設・場所

地域資産カード 新見市

新見公立大学

看護・福祉・保育系の大学。学生が地域活動にボランティアとして参画するなど、様々な面で地域に貢献している。図書館、研修施設は学術交流センターとして市民に開放している。

A. 賑わい・生活環境 施設・場所

事例カード 3-14

先輩ババママとの交流
「子育て家庭留学」

実施主体：岡山県

県内の子育て家庭に実際に訪問し、子どもとの触れ合いや先輩ママ・パパとの交流を通して、将来設計のヒントを得たり、仕事と子育ての両立に対する漠然とした不安を解消する。

(交付金2/3)

子育て家庭留学 in 岡山県

<https://www.grf.okayama.jp/page/92126.html>

出産後支援

事例カード 2-6

坂井市で学生がつくる結婚式
SAKAI-Wedding事業

実施主体：福井県 坂井市

学生が、市内の公共施設を利用して結婚式をプロデュース・運営し、入婚結婚式を挙げる。学生は結婚式の企画立案・準備・当日運営・実施報告まで行う。コロナ禍の影響により、挙式・披露宴をキャンセルしたカップルを募集。

出会い結婚後援

事例カード 4-17

夫婦で未来をデザインする
夫婦会議ノート

実施主体：株式会社logista

「わたしたちを主語に、より良い未来に向けて夫婦で対話を重ね、行動を決めていく『夫婦会議』を進める際に役立つノートブック。ライフデザイン世代を助ける。すべての夫婦に読んでほしいの物語。夫婦会議を習慣化したあとはもちろん、夫婦会議？ 難しそう...という夫婦にも『対話のコツ』や『基礎知識』のページを参考に、カンタンに夫婦会議を始められる。

<https://www.logista.jp/fufukigai>

育児支援

事例カード 5-6

多様な働き方に向け子連れ出勤の導入
「ワークwithチャイルド」

実施主体：愛知県 豊明市

豊明市では多様な働き方のモデルの一つとして、「仕事と子育てを両立できる柔軟な働き方」の普及啓発とともに「子どもと子育て家庭」への理解を深め、より一層子どもと子育て家庭に温かい地域づくりの機運を醸成するため、緊急一時利用に活用することのできる「子連れ出勤」を導入。帯同対象は0歳～小学3年生。

<https://www.city.toyooka.lg.jp/178758.htm>

生活・勤労支援

事例カード 4-32

ライブイベントに応じた情報通知
「子育て支援制度レジストリ」

実施主体：内閣府官庁デジタル行政改革会議事務局

全国の子育て支援制度をオープンデータ化し、「民間の母子手帳アプリ」等を活用し、年齢やライブイベントに応じた情報を保護者に対し、事前にプッシュ型で通知する仕組み。

1. 必要な情報を最速に届ける仕組みの構築

子育て支援制度レジストリ

育児支援 情報発信

Day5の様子

STEP1 STEP2 STEP3 STEP4 STEP5 STEP6



Day6のゴール

- 効果・実施難易度を踏まえた**優先検討事業の設定**
- 今までの議論内容の整理に基づいた**簡易事業計画の作成**

ワーク内容

ホームワーク

実施検討事業案リストの作成

Day5で構想した事業アイデアについて、改めて確認をした後、実施したいもの/予算化に向けて動き出したいものについて整理・リスト化を行う。パッケージとして実施していくことが重要であるため、予算要求が通るかどうかはさておき、実施に向け動きたい意志があるものはリストとして整理をしていく。

優先検討事業の選定

ホームワークでリスト化してきた事業案を、「実現難易度」×「効果（インパクト・持続性）」のマトリックス整理し、実施の優先度を選定する。



今までの議論内容に
もとづいた選定事業の整理

選定した事業案について、今まで議論してきた内容や背景、とらえたい課題等を整理し簡易事業計画書を策定する。計画書をワークショップ内での最終アウトプットとして活用しながら、予算要求の準備を進める。



Point

- 「実現難易度」×「効果（インパクト・持続性）」を議論しながら、**検討事業の優先順位**を策定する
- “今までの全6回のワーク/議論を振り返り・言語化することで、なぜこの事業が生まれ、なぜこの事業をやる必要があるのか、**庁内説明のためのロジック**を整理

(参考) 議論内容整理フォーマット

全6回で議論してきた内容や作成してきたワークシートを整理することで、事業の必要性等のロジックを示すことができるフォーマットになっている

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業 議論内容整理

市/町

客観的指標に基づいた地域の現状

現状を踏まえた取り組み課題と目指すべきまちの姿（本事業全体のゴール）

目標達成に向けた課題

その課題への取り組みの理由

住民の声から見えてきた課題の要因①

住民の声から見えてきた課題の要因②

住民の声から見えてきた課題の要因③

その要因①の解決の方向性

その要因②の解決の方向性

その要因③の解決の方向性

事業となる住民の声

住民に事業案①

住民に事業案②

住民に事業案③

Day2

客観的指標・イシューマップの内容をもとに記載
※できる限り数値を使い具体的に記載

Day2

設定した解決を目指す出生に関する指標・目指すべき地域の姿・探索の問いをもとに記載

Day4

ブラッシュアップした要因仮説・最終事業案になっている解決課題カードをもとに記載
※解決課題カードから変更していたり、いくつかのものを組み合わせ記載してもOK

インタビュー

発言録・インタビューサマリーをもとに記載

Day5・Day6

事業アイデアプレスト内容、事業案リストをもとに記載



03

令和6年度参加市町の成果報告



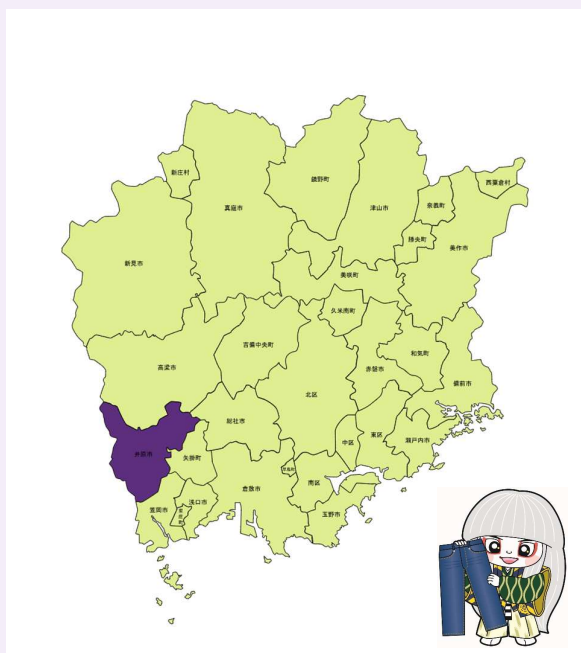
井原市

井原市の概要

 井原市

井原市は、県の西南部に位置し、西は広島県に接している。高梁川支流の小田川が、地域の南部を西から東へ貫流し、その流域の平野部に市街地が形成されており、星空版の世界遺産と称される「星空保護区」を有する美星町があるなど、豊かな自然に恵まれている。

総面積	243.54km ²
総人口	37,396人 (R6.1)
世帯数	16,697世帯 (R6.1)
合計特殊出生率	1.24 (出生数 155人) (R5)
未婚率 (25~39歳)	男性 57.4% 女性 42.6% (R2)
有配偶出生率 (15~49歳)	68.2 (対1000人) (R2)
特徴	古くから繊維産業が盛んでデニムの聖地と呼ばれている お笑い芸人「千鳥」のノブの出身地



井原市が抱える課題

- 出生数が低下している
- 婚姻数が減少しており、未婚率が上昇している
- 市内に高校卒業後進学する大学や専門学校がなく、若者が市外に流出する流れになっている
- 少子化対策が全庁的な取組となっておらず、各部署が個々に事業に取り組んでいる
- 限られた財源の中で真に必要な事業の見極めが必要である

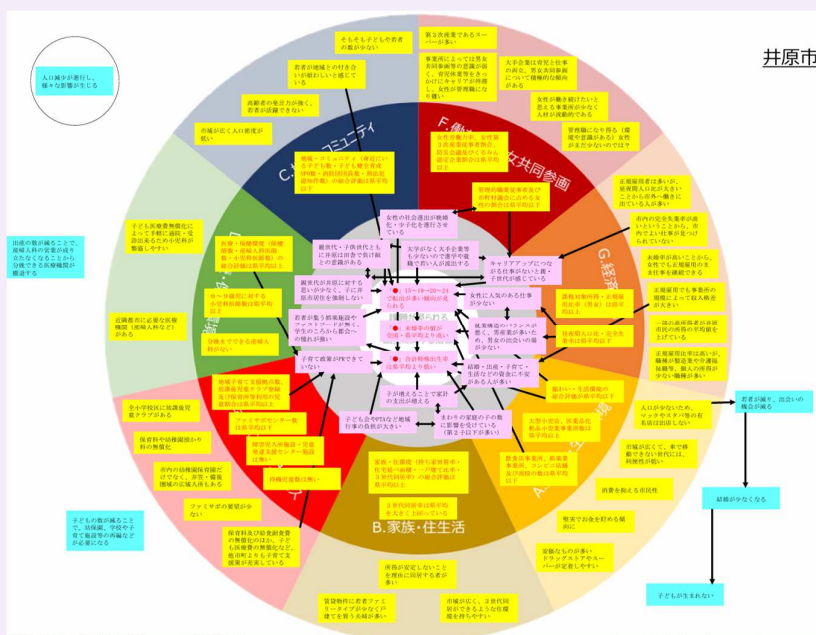


V

参加目的

これまで全庁的に複数の部署が一体となって少子化対策について検討したことがない中、本事業に参加し、県の伴走支援、さらに財政的なサポートを受けながら少子化の要因や真に必要な施策の見極めを行う。

地域の現状把握（Day2）



見えてきた地域の現状

- 15～19→20～24歳で転出が多い傾向が見られる。
- 未婚率の値が全国・県平均より高い、男性の未婚率が特に高い。
- 合計特殊出生率は県平均より低い。
- 3世代同居率は平均を大きく上回っている。
- 正規雇用者は多いが、昼夜間人口比が大きいことから市外へ働きに出ている人が多い。
- 分娩までできる産婦人科がない。
- 子育て施策がPRできていない。
- 賑わい・生活環境の総合評価が県平均以下。
- 賃貸物件に若者ファミリータイプがなく戸建てを買う夫婦が多い。

着目した地域課題

- ・15～19歳→20～24歳（若年層）で転出が多い
- ・未婚率（男女）の値が全国・県平均より高い

目指すべき地域の状態

若者が住みたいと思う魅力的なまちとなり、結婚や出産につながる世代である「若者」が多くいるまち

解決を目指す出生に関する指標 20代、30代の人口、出生数

その課題に着目した理由

若者が減り、出会いの機会が減ることで結婚する人が少なくなり、子どもが生まれないため。

調査設計

設定した探索の問い

- ・井原市を若者が住みたいまちにするためにはどうしたらよいか。

調査方法

- ・グループインタビュー（90分程度）

調査対象者

- ・①井原市出身の20～22歳の大学生
- ・②井原市在住及び在勤の20代既婚社会人
- ・③井原市在住及び在勤の20代独身社会人

主な聴取項目

- | | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・就職と将来※学生のみ <ul style="list-style-type: none"> － 今後就職したい先 － 井原は選択肢に入るか － 将来的な井原市居住意向 | <ul style="list-style-type: none"> ・住む場所・環境について <ul style="list-style-type: none"> － 井原市の好きな点 － 井原市の不満点 － 井原市に住んでいる/働いているきっかけ － 井原での同世代交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・井原市が住みたいまちになるには <ul style="list-style-type: none"> － 住む町を選ぶうえで重視すること － 今後も住み続けたいまちになるには － 井原は若者がチャレンジできるまちか？ |
|--|---|---|

インタビュー調査での気づき

- ・楽しみながら色々な職場が体験できるようなものがあれば、将来の就職の選択肢に入るかもしれない。
- ・同世代の交流は普段ない。
- ・遊ぶ場所や気軽に行ける飲食店があると、日常に活気が出る。
- ・井原に住むまでどんなまちかを知らない人や子育て制度が充実しているということを知らない人が多い。



目指すべき地域の状態

若者が住みたいと思う魅力的なまちとなり、結婚や出産につながる世代である「若者」が多くいるまち

住民の声から見てきた課題の要因①

やりたい仕事がない
あっても知らない

その要因①の解決方向性

若者に企業や市内の仕事を
知ってもらう必要がある

参考となる住民の声

- ・いろんな職場が楽しみながら体験できるようなのがあったら、就職を考えたときに思い出してもらえるのかなと思った。
- ・同世代の交流は普段ない。

住民の声から見てきた課題の要因②

若者向きの住環境が整っていない

その要因②の解決方向性

若者が住むための環境等について現状を分析しニーズを把握する必要がある

参考となる住民の声

- ・一人暮らし用の賃貸が少なかったり割高だった。(井原でも探したが)
- ・遊ぶ場所や気軽に行ける飲食店があると日常に活気が出る

住民の声から見てきた課題の要因③

井原の日常生活の住みやすさが伝わっていない

その要因③の解決方向性

井原の制度や住みやすさに関する情報を効果的に届ける必要がある

参考となる住民の声

- ・井原に住むまで子育て制度が充実しているということ知らなかった。
- ・井原がどんなまちなのか、どんな制度があるのかなどを知らなかった

住民の声から見てきた課題の要因①

やりたい仕事がない
あっても知らない

開発した事業案

ウェルビーイング経営の推進

市内若手社員が企画する
お仕事フェス

住民の声から見てきた課題の要因②

若者向きの住環境が整っていない

開発した事業案

少子化・人口減少に関する
分析調査

住民の声から見てきた課題の要因③

井原の日常生活の住みやすさが伝わっていない

開発した事業案

市公式LINEによる
セグメント配信

電子母子手帳アプリの活用
(圏域で統一化)

Day5 事業アイデア構想の様子



事業案の例

事業案名 ウェルビーイング経営の推進

事業の趣旨および必要性

労働力不足は、全国的な課題となっており、少子高齢化による生産年齢人口（15～64歳）の減少や、働き方改革関連法による労働時間の減少などの要因がある。本市においても、雇用の確保対策が必要であり、若者に選ばれる仕事、働く場の創出に取り組む。

<井原市の生産年齢人口>

平成31年3月末 21,665人、令和6年3月末 19,453人

5年間増減 ▲2,212人（10.2%減少）（全国1.9%減少、岡山県5.8%減少）

事業の内容

働くひとが生き生きと活躍できるよう、ウェルビーイング経営に向けた働き方改革、働きがい改革を啓発し、顕彰する。

（1）ウェルビーイング経営認定

- 労働環境の改善や働きがい向上に取り組んでいる事業所を、一定の基準により認定し、顕彰する。
（育児・介護への配慮、職場環境の改善、キャリアアップ支援、社内コミュニケーション向上の取り組みなど）

（2）ウェルビーイングに関する普及啓発

- ウェルビーイングの意義を経営者等に認知してもらうため、講演会等の啓発事業を実施する。

※ウェルビーイングとは

「個人の権利や自己実現が保証され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること」を意味する概念。

事業案名 少子化・人口減少実態調査分析事業

事業の趣旨および必要性

- ・井原市の実態を多角的な視点から分析することで、少子化および人口減少に関する本市の現状や要因等の本質や課題を把握し、効果的なエビデンスに基づき、真に必要な施策の立案へとつなげる。
- ・少子化や人口問題の原因は多岐に渡り、様々な要因が複合的に絡み合っていることから、人口学的な考え方など専門的知識を踏まえ、一部の職員の考えだけでなく、全庁的に取り組む仕組みの下で検討する必要がある。

事業の内容

少子化や人口減少を専門的に扱うシンクタンクを活用するとともに、部局横断的なプロジェクトチームを組織して、全庁的な取組として、生活環境や産業構造、コミュニティ等の社会関係資本、進学・就業・結婚・出産の希望に伴う地域選択の実態など、これまでよりもさらに一歩踏み込んだ多角的な観点から、少子化や人口減少に係る本市の実態や要因を調査分析する。

また、その結果を可視化（本市の地域特性や要因、問題点や課題等の因果関係を図式化した「ロジックフロー」の作成等）させることで、全市的に問題解決に向けた方向性の統一を図り、エビデンスに基づいた政策形成につなげていく。

【実施プロセス】

①ナレッジ共有 ⇒ ②実情把握、課題想定 ⇒ ③本質整理 ⇒ ④政策の検討立案 ⇒ ⑤成果資料作成

事業案名 市公式LINEによるセグメント配信

事業の趣旨および必要性

子育て世帯に対して効果的な発信ができておらず、情報を必要とする人に対して、届けるべき情報を適切に発信する仕組みの構築が必要である。

事業の内容

- ・井原市LINE公式アカウントにセグメント配信機能をつけることで、一人一人のニーズに合わせた情報を届ける仕組みを構築する。
- ・井原市の子育て情報を必要とする方など、情報を求めている人に対して、最適な情報を発信することで制度やサービスの周知を図る。



参加してみての気づき・学び・成果

- ・ 子育て制度は、事業の組み立てだけでなく周知の重要性を改めて感じた。
- ・ 少子化対策を検討するには、一步踏み込んだ専門知識やエビデンスが必要であると分かった。
- ・ 参加している一部の職員の考えだけでなく、全庁的な取組が必要であると再認識した。

参加してみての課題・苦労点

- ・ GWで各市町の会場まで出向くことやHWの取りまとめが負担となった。
- ・ 自分たちのワークを完遂させることに必死で他市町との意見交換の時間を確保することができなかった。
- ・ 参加した職員だけの考えで立案した事業ではまだまだ不十分だと感じた。

令和8年度に向けて

- ・ 今年度、立案した「少子化・人口減少対策実態調査分析事業」で1年間、さらに本質的な要因を分析し可視化することで、令和8年度以降の各種施策の立案につなげる。
- ・ 部局横断的な取組体制で本市の少子化・人口減少に対する実態の共通認識を持ち、全庁的に問題解決に向けた方向性の統一を図る。
- ・ 可視化した分析結果を行政だけでなく様々な地域主体（企業、商工団体、住民組織、市民など）と共有し、全市的に課題解決に取り組む。



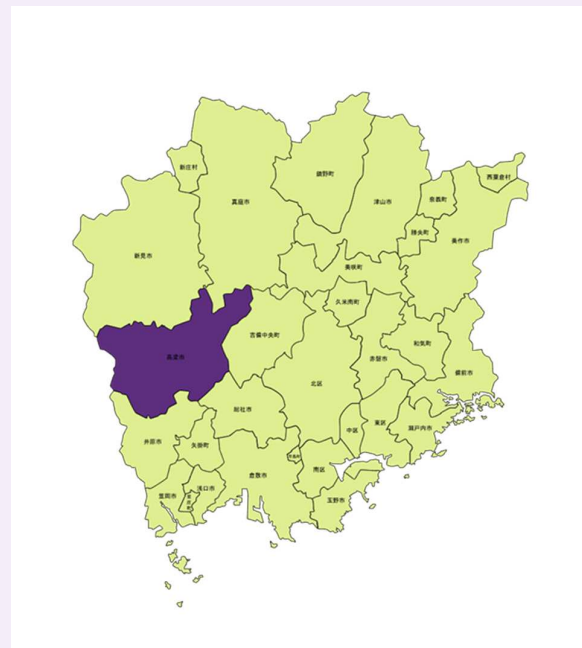
少子化バックアッププロジェクトチーム

市長直轄秘書企画課	柚木 智
市民生活部住もうよ高梁推進課	出原 広晃
健康福祉部健康づくり課	藤森 由美子
教育委員会子ども教育課	池田 愛子
健康福祉部こども未来課	武田 知久
健康福祉部こども未来課	井下 千寛
岡山県高梁地域総務課	中村 知夏子

高梁市

情緒あふれる備中の小京都！！

総面積	546.99km ²
総人口	25,901 人 (R7.2.28)
世帯数	13,083 世帯 (R7.2.28)
合計特殊出生率	1.08 (出生数 80人) (R5)
未婚率 (25~39歳)	男性 60.9% 女性 39.6% (R4)
有配偶出生率 (15~49歳)	64.2 (対1000人) (R4)
特徴	岡山県の中西部に位置。現存12天守のひとつで国重要文化財の「備中松山城」や令和2年度に日本遺産に認定されたジャパンレッド発祥の地「吹屋」、国重要無形民俗文化財の「備中神楽」や、江戸時代から伝えられている「備中たかはし松山踊り」「成羽愛宕大花火」があり、長い歴史と豊かな伝統文化を受け継ぐ町です。4年制大学のある学園都市でもあり、若い力も集まり、社会人のための学びの場も充実しています。



地域が抱える課題と参加した背景

高梁市が抱える課題

- ・ 出生数が年々減少し人口減、少子高齢化が急速に進行
- ・ 20歳～29歳の転出超過が見られる
- ・ 特に男性（25歳～39歳）の未婚率が6割と高く、有配偶出生率が低い
- ・ 合計特殊出生率（第1子）は県平均を下回るが、第2子は県平均を上回る
- ・ 少子化対策に十分なリソースを割けていない（要因分析ができない） ⇒人・モノ・カネ



参加目的

部署や部局を横断したメンバーで客観的データに基づき、少子化の要因分析を行い、高梁市オリジナルのオーダーメイド型の対策を講じていきたい。
また、国・県と連携を図ることで、人的・財政的支援を確保したい。



見えてきた地域の現状

- ・持ち家世帯率が低い。ファミリー向け住宅が少ない。土地が高い。
- ・市外からの通勤・通学が多い。⇒昼間人口が2,000人多い。
- ・高梁で住んで子育てする魅力が伝わっていない。
- ・婚活支援について、需要と支援がミスマッチ。
- ・男性未婚率が高い。⇒消極的男子が多い。
- ・分娩施設が無いなどの不安から子どもを希望する世帯が流出 ⇒ 医療機関の充実が必要。
- ・経産婦は、市内の子育て施策に満足し、また、祖父母の協力等もあり、2子、3子の出生に繋がっている。

着目した地域課題（Day2）

着目した地域課題

第1子の合計特殊出生率は低い、第2子・第3子の出生率は県平均を上回っている、もしくは同等程度。

目指すべき地域の状態

課題である第1子の出生数を伸ばす。～出産適齢期の人を流出させない、また、流入・定住させ、毎年の出生数が100人を超えている～

解決を目指す出生に関する指標

第1子の合計特殊出生率は県平均を下回っているが、第2子は県平均を大きく上回っている。

その課題に着目した理由

・適当な住宅や分娩施設が市内に無いなどの理由から子どもを希望する世帯が市外に流出、また定住先選ばれていない。本市の子育て施策が知られていないため、市内に住んで産もうと思わない。市の魅力発信が不十分のため。

調査設計

設定した探索の問い

出産適齢期の人に居住場所として選ばれるためには。
～出産・子育て不安に繋がっている要因を明らかにする～

調査方法

- ・ グループインタビュー（90分程度）

調査対象者

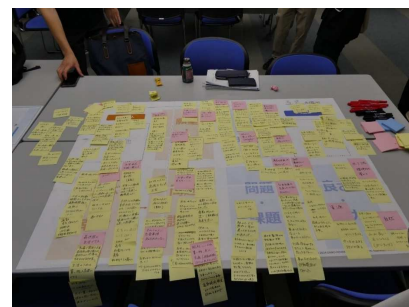
- ・ ①市内外から通勤している20～30代男女（独身）
- ・ ②市外から通勤している子育て中の20～30代女性
- ・ ③市内に住んでいる子育て中の20～30代女性

主な聴取項目

- | | |
|--|--|
| ■職場・仕事の選定について <ul style="list-style-type: none"> ・本市で働く経緯 ・本市への通勤に関して | ■高梁市への評価 <ul style="list-style-type: none"> ・本市への満足度 ・本市の良いところと不満点 ・子育ての観点で本市の評価 |
| ■住む場所・環境について <ul style="list-style-type: none"> ・現居住地を選んだ経緯 ・住むうえで重視すること ・情報収集経路 | |

インタビュー調査での気づき

- ・市内に住む傾向の高い方は、職場への通勤距離を重視している。
- ・市内で家を建てる場合、土地がないことが課題。土地の情報は人づてとなっている状態。
- ・こどもの遊び場、医療施設の拡充が求められている。⇒屋内やおもいっきり走り回れる公園の整備が求められている。また、医療施設の混雑や受付時間の短さが、ネガティブな想いに繋がっている。
- ・本市の制度がきちんと伝わるよう、市からの積極的な情報発信が必要。
- ・県南へのアクセスとして、バスとＪＲとの接続が求められている。



目指すべき地域の状態

課題である第1子の出生数を伸ばす。～出産適齢期の人を流出させない、また、流入・定住させ、毎年の出生数が100人を超えている～

住民の声から見えてきた課題の要因①

子育てするなら高梁市のブランドイメージの知名度が低すぎる

その要因①の解決方向性

広報、周知の方法を根本から見直すことで、子育て世代が定住を検討するタイミングを逃さずに、需要に合った適切な広報・周知が必要

参考となる住民の声

- ・自分の困りごとをきちんと自覚できていないこともあり、届けられた情報は確認するが自分から調べたりはしない。
- ・現状の支援制度の活用方法なども理解が追いついていない部分がある。

住民の声から見えてきた課題の要因②

収入と家賃、住宅規模のバランスが悪く、適切な住宅がなく、住む場所として選ばれない

その要因②の解決方向性

ニーズに合った住宅と土地を確保することで、結婚して家庭を持ちたいと思っている若者世代が市内に居住できる環境整備が必要

参考となる住民の声

- ・土地の情報は人づてに知る。どこで情報を取得すればいいかわからない。
- ・住みたい場所に土地がない。
- ・家賃が高い。家賃の割に部屋が狭い。駐車場がない。

住民の声から見えてきた課題の要因③

小児科や専門科が少なく、混雑や受付時間が短いことへの不満や不安

その要因③の解決方向性

医療機関へのアクセスのしやすさが必要

参考となる住民の声

- ・医療機関が少ない。（小児科、耳鼻咽喉科、皮膚科など）
- ・小児科と内科が一緒に待ち時間が長い。
- ・医療機関が混雑する。受付時間が短い。
- ・こどもが熱を出したり病気になった時は不安。



目指すべき地域の状態

課題である第1子の出生数を伸ばす。～出産適齢期の人を流出させない、また、流入・定住させ、毎年の出生数が100人を超えている～

住民の声から見てきた課題の要因④

出会いの場がない（男性未婚率60.9%と県下ワースト2位）



その要因④の解決方向性

自然な出会いの場が必要

参考となる住民の声

- ・昼間のバーベキューなどは参加し易い。
- ・人数が多い方が参加し易い。
- ・誰かに誘われたら出会いの場に参加する。
- ・友達感覚で遊ぶ位なら参加し易い。
- ・上司の娘に出会いそうで怖い。

住民の声から見てきた課題の要因⑤

都市公園等はあるが小さな公園しかない。屋内で遊ぶ場がない。



その要因⑤の解決方向性

こどもと親が遊べる場所が必要

参考となる住民の声

- ・屋内でこどもと遊べる場が欲しい。
- ・高梁グリーンパークはめっちゃくちゃいい場所。
- ・屋外で気軽にボールを使ったり、走り回れる広い公園が欲しい。



住民の声から見てきた課題の要因①

子育てするなら高梁市のブランドイメージの知名度が低すぎる

開発した事業案

市長子育て応援室の設置

子育てアンバサダーの配置

さんじゅーろーで猫ミーム

住民の声から見てきた課題の要因②

収入と家賃、住宅規模のバランスが悪く、適切な住宅がなく、住む場所として選ばれない

開発した事業案

子育て向け賃貸住宅の建設促進

新婚世帯の家賃補助等の拡充
(世帯所得の条件撤廃)

非居住住宅利活用促進税の導入

住民の声から見てきた課題の要因③

小児科や専門科が少なく、混雑や受付時間が短いことへの不満や不安

開発した事業案

医療機関へのオンライン予約

小児科の診療時間延長

住民の声から見てきた課題の要因①

出会いの場がない（男性未婚率60.9%と県下ワースト2位）

住民の声から見てきた課題の要因②

都市公園等はあるが小さな公園しかない。屋内で遊ぶ場がない。

開発した事業案

異業種交流会

若い人が集まる共同作業イベント

開発した事業案

文化交流館の屋内遊具整備

まち全体公園化計画

その他の開発した事業案

給食費の無償化
（食材高騰への補助）

ワーク・ライフ・バランスの推進
（男性育休の取得支援）

子育て支援センターの
土曜日開所

ファミリーサポート事業の強化
（電子予約）

業務用スーパー、こども用品店の誘致

こども会議の開催、
JK課・JD課の創設

永年居住表彰

令和7年度
予算要求・提案事業

今後予算要求
予定の事業

継続して検討
する事業

事業アイデア開発の様子（Day5~6）

Day5 事業アイデア構想の様子



Day6 事業優先順位設定の様子



事業案名 ①子育て世帯向け賃貸住宅建設促進事業

事業の趣旨および必要性

次世代を担う若者の定住促進と地域経済の活性化を図るため、市内において子育て世帯向けの賃貸住宅の整備を促進し、定住に向けた住まいの確保を進めることを目的とする。

[子育て世帯の住環境の改善]

子育て世帯向けの賃貸住宅が増加することで、子育て世代が安心して生活できる住環境の整備に繋がる。

[地域の人口増加]

子育て世帯が住みやすい住宅が整備されることで、地域への移住や定住を促進。特に若い世代が地域に根付くことで、地域の活性化や人口減少の抑制に繋げる。

事業の内容

【補助内容】 一部拡充

高梁市立地適正化計画の居住誘導区域および市が指定する地域への建設

住宅建設費用の 1/10 上限 100 万円/戸

(次の場合は上限額に加算)

市内業者による建設 10 万円/戸, 居住誘導
区域内の建設 10 万円/戸

【対象者】

(1)市内において子育て世帯向け賃貸住宅を建設する個人又は法人であること

(2)本市の市税等の滞納がないこと

(3)国、県その他の団体等から重複する助成金等の交付を受けていないこと

【対象住宅】

(1)1棟当たり2戸以上の賃貸契約を締結して賃貸する共同住宅

(2)1戸当たり55㎡以上の住戸専用面積があること

(3)専用駐車場が各1台以上確保されていること

(4)各戸に玄関、トイレ、浴室及び台所等が設置されていること 等

事業案名 ②異業種交流会

事業の趣旨および必要性

出会いの場がない（男性未婚率60.9%と県下ワースト2位）

⇒独身者のニーズに合った婚活イベント等による出会いの場の機会創出が必要

⇒従来の「the婚活イベント！」ではなく、参加ハードルが低いイベント

⇒異業種交流会（異業種間による自然な出会いの場の確保）

事業の内容

業種を超えて若手職員の交流と仲間づくりを行い、独身男女の自然な出会いの場を創出する。 ※婚活を匂わせないステルス婚活

(実施例)

【構成】

1部：セミナー 2部：懇親会

【対象者】

市内事業所に勤務する若手職員

(入社1年目～5年目くらいor30歳くらいまでの独身男女)



事業案名 ③高梁市文化交流館 1 階改修工事

事業の趣旨および必要性

施設の将来像は以下のとおり。

- ①様々な世代が集え賑わいのある空間
- ②人と人との交流ができる場所
- ③こども、高齢者等様々な世代が遊べ集える場所
- ④学生の学習スペースとおしゃべりができる場所

こども計画策定時のアンケート

Q「どのような子育て支援が必要か」 ⇒ 「公園などこどもと遊べる場所がほしい」(68.2%)

Q「遊び場にどのような不満があるか」 ⇒ 「雨の日に遊べる場所がない」(79%)

事業の内容

施設内には、クッションマットを敷き、すべり台、ボルダリングを設置。また、授乳室を設けた。
施設外には芝生広場を整備。



事業案名 ④ワーク・ライフ・バランス推進事業

事業の趣旨および必要性

雇用する従業員の子育て及び地域における子育てを応援する企業等を登録し、企業等の子育て支援を促進するとともに、安心して子どもを産み育てる環境を整備する。

[ワーク・ライフ・バランスの推進]

仕事と子育ての両立⇒魅力的な会社づくり⇒従業員のモチベーションアップ⇒企業利益の向上⇒人材確保

[こどもまんなか社会の醸成]

本市の進めるこどもまんなかの機運の醸成を図る⇒子育てするなら高梁市⇒子育て世帯に限らず誰もが住みやすいまちへと繋げていく



事業の内容

【登録事業】

高梁市内で事業活動を行う者であって、次の各号に掲げる子育て支援のいずれかに積極的に取り組む、子育てに優しく協力的な企業等とする。

- (1)子育てと仕事が両立できる職場環境の整備
- (2)地域における子育て支援
- (3)その他子育てに関する独自の取組み

【奨励金事業】

交付する奨励金の種別は、次の各号に定めるものとする。

- (1)産後パパ育休取得奨励金
- (2)男性の育児休業取得奨励金
- (3)再雇用奨励金
- (4)研修会開催奨励金
- (5)子育て環境整備奨励金

※奨励金の額は1件あたり原則10万円とする。

事業案名 ⑤ようこそ高梁出店支援事業

事業の趣旨および必要性

本市が抱える課題の解決及びこどもまんなか（ベビーファースト運動）の推進を図るため、これらの関連店舗等の都市機能誘導区域内への出店に対して補助金を交付する。

事業の内容 拡充

○補助対象経費

(1) 店舗を改修する場合

店舗を改修する経費及び備品購入費（対象経費が50万円以上であること。）

(2) 店舗を新築する場合

店舗等を建設する経費、用地購入費及び備品購入費（対象経費が50万円以上であること。）

○補助率

補助対象経費の1／2

○交付限度額

300万円

参加してみての成果と課題、そして今後に向けて

参加してみての気づき・学び・成果

- ・来年度に向け、具体的な事業実施を行うための準備ができた！
⇒補助金や他県で先進的に行っている情報提供など、県の全面的なバックアップがあった。また、客観的データに基づき、施策へと展開する術を学べた。
- ・他市町、本市の他課の事業について知る良い機会になった！
- ・インタビュー調査については、大広さんのスムーズな進行により率直な意見を聞くことができた！
- ・地域資産カードの作成により、改めて高梁市の良さに気づくことができた！
- ・県補助金により、次年度に向け、財源確保ができた！

参加してみての課題・苦労点

- ・参加メンバーへの声掛けやメンバーの確保
- ・ホームワークが大変だった・・・
⇒担当業務にあたりながらの資料作成
- ・各課の連携
⇒横断的な組織体制で取組むには、各課での温度差もあり、改めて難しいと感じた。

令和8年度に向けて

- ・少子化対策の課題は多岐にわたり関係部署との連携の強化を図る。
⇒郷土愛の醸成
結婚・出産へのポジティブキャンペーン
出会い・結婚推進
住まいの確保
若者の定住・移住推進
企業とのタイアップ
（人材確保、ワーク・ライフ・バランスの推進）
経済的支援（特に多子世帯）
こどもまんなかの機運の醸成
- ・広報力の強化を図る。
⇒「伝える」から「伝わる」広報への戦略的な発想転換

ありがとう
ございました





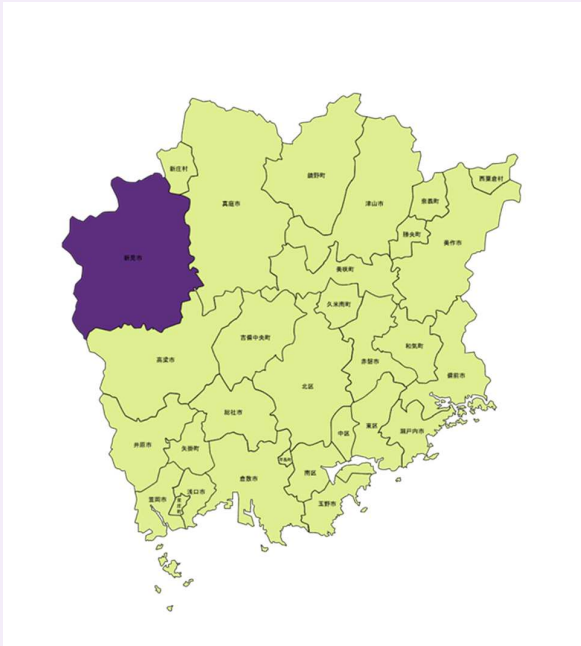
新見市

新見市の概要



新見市は、岡山県の西北端に位置し、鳥取県、広島県と県境で接している。起伏の多い地形で、総面積の約87%を森林が占める高梁川源流域の自然豊かなまち。

総面積	793.29km ²
総人口	26,657 人 (R6.1)
世帯数	12,654 世帯 (R6.1)
合計特殊出生率	1.01 (出生数 82人) (R5)
未婚率 (25~39歳)	男性 58.0% 女性 36.3% (R2)
有配偶出生率 (15~49歳)	64.8 (対1000人) (R2)
特徴	千屋牛、ピオーネ、キャビア、ワインなどの「A級グルメ」



新見市が抱える課題

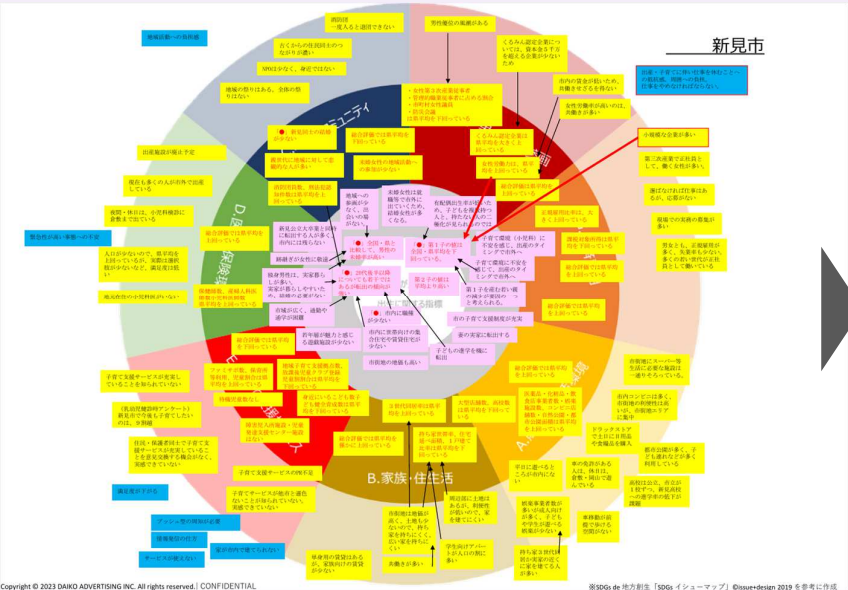
- 合計特殊出生率の低下
令和2年以降は県平均を下回っている。
- 少子化対策を進める上での連携不足
子育て支援、結婚支援、医療・保健など、それぞれ別の部署が担当しており、情報共有や連携の機会が少なかった。
- 新たな施策の必要性
本市の子育て支援施策は他市と比べても充実している分、手を尽くした感があり、新たな視点やノウハウなどを得て、さらなる施策を考える必要があった。



参加目的

- 各種統計・調査データや住民への意識調査などを活用できる。
- コンサルや県のサポートを受けながら施策を検討できる。
- 事業実施にあたって県からの補助もある。

地域の現状把握（Day2）



見えてきた地域の現状

- 新見同士の結婚が少ない。
- 全国・県と比較して、男性の未婚率が高い。
- 15~19歳→20~24歳（若年層）で転出が多い傾向が見られる。
- 20代後半以降についても、若干ではあるが転出の傾向が強い。
- 第1子の値は、全国・県平均を下回っている。
- 第2子の値は、全国・県平均を上回っている。
- 3世代同居率は県平均を上回っている。
- 持ち家世帯率、住宅延べ面積、一戸建て比率は県平均を下回っている。
- 女性労働率は県平均を上回っている。
- 正規雇用者比率（女性）は県平均を大きく上回っている。

着目した地域課題

第一子の出生率が全国・県平均を下回っている。

合計特殊出生率の内訳：第一子 新見市0.60 全国0.66

県平均を50としたとき 新見市46.7

目指すべき地域の状態

安心して出産・子育てできる環境をつくる

課題：小規模な企業が多く、仕事の都合上、出産・育児で休みにくい人が多いのではないか

解決を目指す出生に関する指標 第一子出生率 0.60 → 0.66

その課題に着目した理由

- ・本人に子を持つ意思がなければ子どもは生まれない。第一子が生まれないと二子、三子も生まれない。
- ・第二子の出生率は県平均を上回っている。第一子を産む後押しをすることで、第二子を産む希望を持ってもらえるのではないか。

主観調査の設計および気づき（Day3～主観調査）

調査設計

設定した探索の問い

- ・ 新見市が安心して出産・子育てができる地域になるにはどうすればよいか。

調査方法

- ・ ①②③デプスインタビュー（60分程度）

調査対象者

- ・ ①結婚はしたけど、出産はしていない就業者 ×2
- ・ ②未就学児の子を持つ女性or妊婦 ×1
- ・ ③新見市の企業経営者×1

主な聴取項目

- | | | |
|--|---|---|
| <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新見市での暮らしについて ・職場に求めること ・子ども希望有無とその理由 ・出産を望むうえでの不安 | <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新見市での暮らし・子育てについて ・子どもを産もうと思ったきっかけ ・子どもを産むまで思っていた不安 ・職場に求めること | <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営されている企業紹介 ・育休・産休の有無・取得状況 ・母親を雇用することに対する印象 ・雇用するうえで行政に求める支援 |
|--|---|---|

インタビュー調査での気づき

- ・ 子どもを持つことに消極的な価値観
メリットがない、趣味・仕事を優先したい、子育てに自信がない
- ・ 子育てに係る休暇を取得しやすい環境の必要性
働く側からは、休みを取ることにに対する抵抗感の声あり。経営者側からは、休暇制度を充実させることによるメリットを求める声あり





目指すべき地域の状態

新見で子育てをしたいと思ってもらえる環境をつくる

住民の声から見てきた課題の要因①

子どもをほしいと感じるようなきっかけがない

その要因①の解決方向性

まちのあらゆるところで幸せそうな子育て家庭を目にすることで、また、子育て家庭とふれあうことで、子どもがあることの喜びや幸せを抱く。

参考となる住民の声

・夫婦2人で楽しく過ごしていたら子どもなんていないと思うので、産むメリットがあまり思いつかない。
・もともと子どもは好きじゃなかったが、応援している Youtuber が妊娠報告をしている動画を見て、すごく幸せそうな顔をしていたので、子どもっていいなと思うようになった。

住民の声から見てきた課題の要因②

趣味・仕事を優先したい

その要因②の解決方向性

子育てと趣味・仕事を両立することによる経済的、物理的、心理的負担が少なく、自分に合った自分流の子育てができると自信をもって思える状態になる。

参考となる住民の声

・周りも結婚しておらず、子どもあまりいなかったからまだいいんじゃないか、自分の時間がまだ欲しいと思っていた。
・感覚的に子どもを育てるにはお金がかかりそうだなという印象。
・育てられる気が少なく、自信もないので産むことが現実味がない。

住民の声から見てきた課題の要因③

企業が子育てを支援するメリットがない

その要因③の解決方向性

子育てする社員に対する企業の思いや支援を市が目に見える形で応援・支援することで、企業と市が連携・協働しながら、快適な子育て環境をつくりあげることが当たり前になる。

参考となる住民の声

・子育て支援なども個人には補助金が出ても、企業には一円もメリットがない。

住民の声から見てきた課題の要因①

子どもをほしいと感じるようなきっかけがない

開発した事業案

妊娠・出産応援パッケージ
(妊婦健診等に要する交通費、入院前宿泊費助成)

子育て応援施設整備等補助事業
(キッズスペース等の導入費補助)

インフルエンサーによる情報発信

住民の声から見てきた課題の要因②

趣味・仕事を優先したい

開発した事業案

多様な働き方の創出
(テレワーク推進)

プレコンセプション・ライフプランデザイン講座

不妊治療の拡充
(卵子凍結等)

住民の声から見てきた課題の要因③

企業が子育てを支援するメリットがない

開発した事業案

ワークライフバランス促進事業
(出産・育児休暇の取得促進に向けた企業への助成金)

令和7年度
予算要求事業今後予算要求
予定の事業継続して検討
する事業

Day5 事業アイデア構想の様子



Day6 事業優先順位設定の様子



事業案の例

事業案名 妊娠・出産応援パッケージ事業

事業の趣旨および必要性

本市の地域指標評価ツールによると、産婦人科医師数は県平均を上回ってはいるものの、産婦人科は市内で1か所しかなく、さらには令和6年度末をもって分娩を取りやめることが決定しており、妊婦は遠方での受診・分娩が必要である。

市外で出産することに伴う経済的負担から出産を躊躇することがないよう、妊娠・出産を希望する人を支援する必要がある。

事業の内容

妊婦に対して、健診や出産に要する通院の交通費、および出産時の入院前宿泊費の助成を行うことで、経済的負担の軽減を図り、安心・安全な妊娠・出産につなげる。



事業案名 多様な働き方の創出（テレワーク推進）事業

事業の趣旨および必要性

本市では、20代をはじめとする若者（特に女性）の市外転出が課題となっている。その要因の一つとして、職業の選択肢が少なく、若者や女性が就職と同時に市外へ転出する流れが続いている。

そのため、多様な職種や働き方の都市部企業を誘致することで、若者や女性に選ばれる職業の選択肢を増やす必要がある。

また、仕事や趣味を優先したいため出産を躊躇するという声も聞かれることから、テレワークなどの柔軟な働き方が広がることで、子育てと仕事・趣味の両立が図りやすくなる環境をつくる必要がある。

事業の内容

多様な働き方を導入しており、かつ、地方への進出を検討している企業のサテライトオフィスを誘致することで、若者や女性にも選ばれる職業を市内につくる。

企業を誘致するためには、企業ニーズの把握、ニーズに合わせた支援などが必要となってくる。

また、新見市に進出するメリットがないと企業は来ないため、進出検討時における実証事業の支援など、企業が進出しやすいよう支援を行う。

参加してみたの成果と課題、そして今後に向けて

参加してみたの気づき・学び・成果

- ・ 客観的なデータによって市の課題を把握することができた。
- ・ インタビュー調査によって、市民の生の声を深掘りして聞くことができた。
- ・ 一連のワークを通して、論理立てて施策を立案することができた。

参加してみたの課題・苦労点

- ・ 課をまたいだメンバーで参加したため、メンバー間の調整（スケジュールやホームワーク）に苦労した。
- ・ 少子化対策が全庁的な取組となるよう、課を横断したマトリクス組織が必要であると感じた。

令和8年度に向けて

- ・ 実施にあたっては、外部との調整が必要な事業もあることから、令和8年度当初予算要求に向けて調整を進める。
- ・ 令和7年度当初予算で予算化できなかった事業については、令和7年度補正予算もしくは令和8年度当初予算での予算化を目指す。



美作市

美作市の概要



美作市は、岡山県の北東部に位置する面積429.29平方キロメートル、人口約2万5千人の街です。北は鳥取県、東は兵庫県と接しており、地域全体に緑の豊かな山々と、清らかな川の流れ、その周辺に広がる田園などが調和して落ち着いた景観を形成しています。公共交通では鳥取県と大阪・京都、岡山を結ぶ智頭急行の特急停車駅があり、京都まで2時間30分、岡山駅までを1時間で結んでいます。

総面積

429.29km²

総人口

25,524人 (R6.1)

世帯数

12,333世帯 (R6.1)

合計特殊出生率

1.30 (出生数 96人) (R5)

未婚率
(25~39歳)

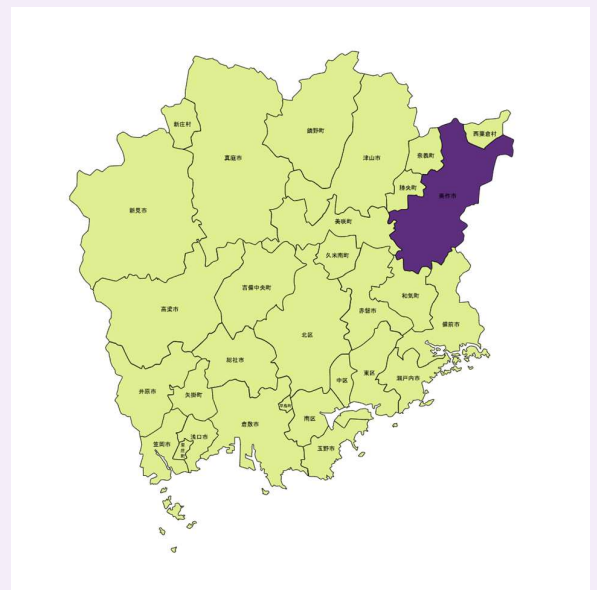
男性 55.5% 女性 36.3% (R2)

有配偶出生率
(15~49歳)

66.3 (対1000人) (R2)

特徴

- 【豊富な観光資源として】
- ・美作三湯の一つとして知られる湯郷温泉
 - ・剣聖宮本武蔵の生誕地
 - ・F1が開催された岡山国際サーキットなど



美作市が抱える課題

- ・ 第2子の出生率が県平均より低い（第1子と第3子は県平均より高い）
- ・ 男性の未婚率は全国、県平均より高い（女性の未婚率が県平均より低い）
- ・ 若い世代の転出が多い（10歳～24歳）

美作市では令和5年度より、少子化対策・子育て支援策を検討するため部署横断的な組織「子ども政策会議」を発足し、若手職員を中心に、様々なアイデアを出し合い、市の施策立案に活かしていました。会議を進める中で、客観的データに基づいた企画立案が重要であろうとの意見が出ていたところ、岡山県が実施している本事業を知り、客観的データに基づく少子化対策・子育て支援策の検討を進め、各種施策の拡充に繋げるため、本事業へ参加しました。また、本事業は複数の市町村が参加して共に検討を進めていくため、そこから新たな考えやアイデアが見えてくるのではないかと期待も参加を決めた一つでもあります。

参加目的

地域の現状把握（Day2）

STEP1

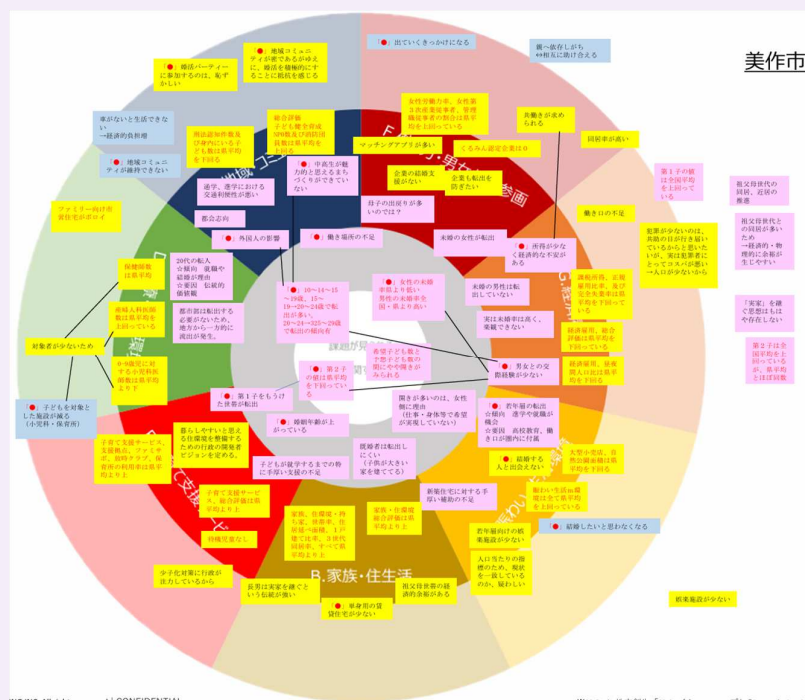
STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6



見えてきた地域の現状

- ・ 男女とも交際経験が少ない
- ・ 若年層の転出
- ・ 第1子をもうけた世帯が転出
- ・ 婚姻年齢があがっている
- ・ 中高生が魅力的と思えるまちづくりができていない
- ・ 所得が少なく経済的な不安がある
- ・ 結婚したいと思わなくなる
- ・ 単身用の賃貸住宅が少ない
- ・ 婚活パーティーに参加するのは恥ずかしい
- ・ 地域コミュニティが密であるがゆえに、婚活を積極的にすることに抵抗を感じる

着目した地域課題

・合計特殊出生率の第2子の値が県平均を下回っている

目指すべき地域の状態

第2子以降も安心して産むことのできる子育て支援の充実した政策と、子育て世帯が定住（移住）しやすい「まなび」と「子育て」のまち

解決を目指す出生に関する指標 第二子の出生率を県平均以上に

その課題に着目した理由

「少子化対策を考えるにおいて、第2子以降の出生率は特に重要と感じた」、「県内の類似団体でも、真逆の傾向を示す自治体も多く、美作市が特に解決すべき課題と感じた」



主観調査の設計および気づき（Day3～主観調査）

調査設計

設定した探索の問い

- 安心して多子を生みづらいことに加え、住環境や生活環境の影響で第1子出生後転出

調査方法

- グループインタビュー（90分程度）

調査対象者

- ①美作市内で子育てをする30代女性
- ②子育て中に美作市から転出した30代
- ③津山市に通学する高校生

主な聴取項目

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 住居エリア選択の価値観について 住む場所を決めるときに何を重視しているか その中で今の場所を選んだ理由はなにか 賃貸・持ち家どちらが理想か | <ul style="list-style-type: none"> 子育て環境や価値観について 子育てにおいて喜びを感じる/大切な時間 美作市にどんなサポートをして欲しいか 理想の子ども人数について | <ul style="list-style-type: none"> キャリアや今後の理想について 結婚観について 定住意向について 今後のキャリアについて |
|--|--|--|

インタビュー調査での気づき

- 子育ての悩みを共有できる環境や、支援情報が不足しており、相談場所や制度の理解が進まず、子育てに孤立した感覚を覚えているのではないかと。
- 不動産情報や定住支援情報が乏しいことで、住居や土地の条件が悪いという印象を与えているのではないかと。
- 生徒数が少ない環境が市外への就学につながり、通学便の悪さが居住場所にも影響を与えているのではないかと。



目指すべき地域の状態

第2子以降も安心して産むことのできる子育て支援の充実した政策と、子育て世帯が定住（移住）しやすい「まなび」と「子育て」のまち

住民の声から見てきた課題の要因①

第1子の子育て時の負担や不安
子育て支援の情報不足とPR不足

その要因①の解決方向性

- ・相談できる場所づくりとアプローチの充実
- ・子育て支援センターの運営方法の改善と充実
- ・子育て支援策の充実・PR強化

参考となる住民の声

- ・子育て初期が特に孤独
- ・頼れる人がいない
- ・子育て支援センターは好評
- ・市の子育て支援の姿勢はイマイチ

住民の声から見てきた課題の要因②

住居や土地の条件が悪い
情報発信不足

その要因②の解決方向性

- ・不動産情報、定住移住支援情報の改良
- ・移住定住者が来ない要因を明確化
- ・新築補助の若年者、子育て世帯への充実化

参考となる住民の声

- ・子どもの通学のことを考えると津山市に近いところ
- ・実家に近いところに家を建てたい

住民の声から見てきた課題の要因③

高校への通学利便性の悪さ
部活の選択肢の少なさ

その要因③の解決方向性

- ・教育は外部要因によるところが多いため、他の魅力づくりを見つける

参考となる住民の声

- ・自分の子に同じ思いをさせたくない
- ・習い事、部活など選択肢の多さを重視
- ・人数の多い学校のほうが人間関係の経験値が高まりそう



解決課題を踏まえた最終事業案 (Day5~6)

住民の声から見てきた課題の要因①

- ・第1子の子育て時の負担や不安
- ・子育て支援の情報不足とPR不足

開発した事業案

子育て支援ホームページ開設

妊産婦訪問の実施

住民の声から見てきた課題の要因②

- ・住居や土地の条件が悪い
- ・情報発信不足

開発した事業案

既存定住補助に若年層向けの加算措置

新婚世帯への住宅賃貸料等、引越費用への補助

住民の声から見てきた課題の要因③

- ・高校への通学便の悪さ
- ・部活の選択肢の少なさ

開発した事業案

市の特色のある教育
(寺子屋システムの構築等)

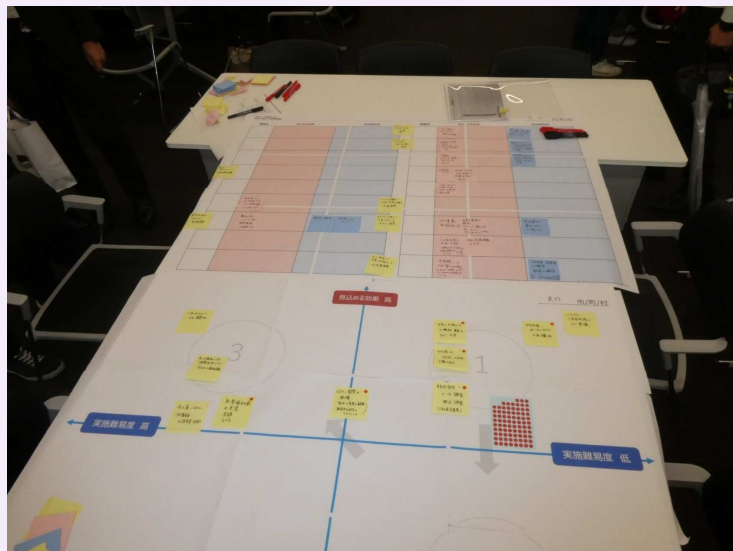
通学苦を感じさせない仕組みの構築
(通学費支援、公共交通網の研究等)



Day5 事業アイデア構想の様子



Day6 事業優先順位設定の様子



事業案の例

事業案名 子育て支援ホームページ作成事業

事業の趣旨および必要性

合計特殊出生率の第2子の値が県平均を下回っている現状や住民の声から見てきた課題として、「第1子の子育て時の負担や不安」や「子育て支援の情報不足とPR不足」が浮かび上がってきた。

この対策として、美作市ホームページに子育て支援に特化したページを作成し、子育て中の方やこれから子育てを始める方に、本市の子育てに関する様々な情報を取得できる環境を整備する。

事業の内容

美作市ホームページに子育て支援に特化したページを作成し、子育て中の方やこれから子育てを始める方に、本市の子育てに関する様々な情報を取得できる環境を整備し発信することにより、結婚や出生数の増加につなげる。



事業案名 新婚さんバックアップ事業補助金

事業の趣旨および必要性

（趣旨）婚姻により新生活を始めるための費用を応援することで経済的不安の軽減を図り、結婚推進及び少子化対策に資するもの。

（必要性）出生率を上げるためには、まず前提条件として婚姻数を上げることが必要であることから、住居の賃貸費用を支援し、物価高騰等による経済的負担を軽減することで、婚姻数の増加を促すため。

事業の内容

- 補助対象経費
 - ・結婚に伴う住居の賃借費用（賃料・敷金・礼金・共益費・仲介手数料）
 - ・結婚に伴う住居への引越費用（専門業者を利用した引越し）
- 補助対象者
 - ・令和7年4月1日から令和8年3月31日までに婚姻届を受理された新婚世帯（再婚含む）であること
 - ・夫婦ともに40歳未満（婚姻届けが受理された日）
 - ・申請時点で婚姻を継続し、市内に居住し、住基登録され、夫婦とも同一の居住先であること
 - ・市に定住する意思があること ・その他要件有
- 補助金額
 - ・夫婦共に満30歳未満の世帯 60万円
 - ・夫婦共に満40歳未満の世帯 30万円



事業案名 「美作市みましか移住定住住宅補助金」の充実

事業の趣旨および必要性

- ・人口の流出に歯止めをかけるとともに、市外からの移住を促進することにより、市の人口増加と活力ある地域づくりを推進すること及び結婚に伴う住宅取得費用等を補助することで少子化対策に資することを目的としている。
- ・他市町村と比較すると補助金額が低いことが目立つため、増額が必要。

事業の内容

- ・児童生徒加算（義務教育修了前の子どもが対象）が1人あたり5万円であったものを、令和7年度からは1人あたり10万円に増額する。
- ・上限額を、新築は40万円を130万円へ、中古住宅購入とリフォーム加算は30万円を50万円へ増額する。
- ・令和7年度から、新規で若者加算（申請者またはその配偶者も40歳未満の場合が対象）の10万円を新設する。
- ・市町村バックアップ事業県補助金の対象は、児童生徒加算部分のみ



参加してみての気づき・学び・成果

- 一つの課題に対し、他課の職員と連携して行うWG形式の会議の必要性を強く感じた。
- インタビューを通じ市民の声を把握し、仮説と比較することの有用性を感じた。
- 他自治体と共同実施することで、他団体の気づきや施策を当市に流用できる可能性があると感じた。また、岡山県の方がグループワークに入ること、自治体の枠を超えた広域的な施策が生まれるきっかけになると感じた。
- インタビュー調査は、施策ターゲットの方の置かれている状況や背景を把握するのに有効な手段であることを体感。
- 当事者へのヒアリングの重要性を再認識した。

参加してみての課題・苦労点

- 時間に追われる形が多かったので、無理に導いた結果を最終まで持ち込むリスクが高く、回数を増やすか、一部の行程を省くかしないと、効果が半減してしまうように思います。
- 初回はワークの作業についていけなかった。付箋とマーカーの色、付箋を貼る場所、ホームワークの内容を付箋に転記する作業などの作業ルール、時間にも限りがあり、アイデア出しや話し合いをする余裕がなかった。
- 市が保有する人口などの情報がすぐに活用できるデータとして整理されていないので、仮説を立てたとしても検証が容易でない。ただし、データがあったとしても有効な分析ができるかどうか不安。
- 課題の要因仮説を立てる際に裏付けを得ること、課題解決の方法に説得力を持たせることの難しさ。

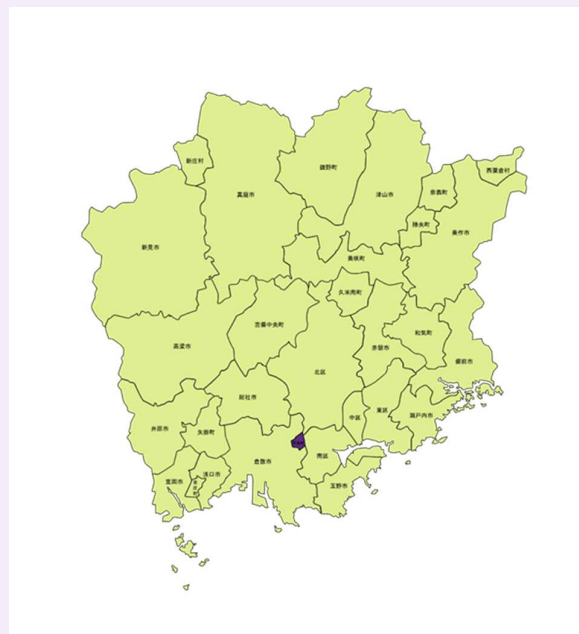
令和8年度に向けて

- どの課に所属しても、子育て世代の市民を意識した政策考案を心がけたい。
- 高齢者人口が多いから高齢者福祉を充実させるという考えではなく、それを支えるための若者を支援する政策を提言していきたい。
- 市が保有する人口などの情報をだれでもすぐに活用できるデータとして整理する。事業効果を検証できる環境にし、より効果的な事業に見直し続ける。
- 部局横断的メンバーで市の課題を議論する場は貴重、継続が望ましい。
- 交付金を前提とした単年事業ではなく、継続性のある事業を複数立ち上げられたので、むしろ令和8年度以降が本番と捉えている。検証と改善を繰り返しながよりよい事業としていきたい。



早島町は、県内二大都市に挟まれたいわゆるベッドタウンであることに加え、関西、広島、四国、山陰を広域の高速道路網で結ぶクロスポイントに位置しており、中四国の流通・交通の要衝となっていることから企業立地も盛んとなっている。そのような立地特性から、本町の社会動態数は2013年以降増加で推移しており、特に若い世代が多く流入している。

総面積	7.62km ²
総人口	12,764人 (R6.1)
世帯数	5,258世帯 (R6.1)
合計特殊出生率	1.98 (出生数 121人) (R5)
未婚率 (25~39歳)	男性 35.9% 女性 28.7% (R2)
有配偶出生率 (15~49歳)	102.3 (対1000人) (R2)
特徴	来年で町政130周年を迎えます！



地域が抱える課題と参加した背景

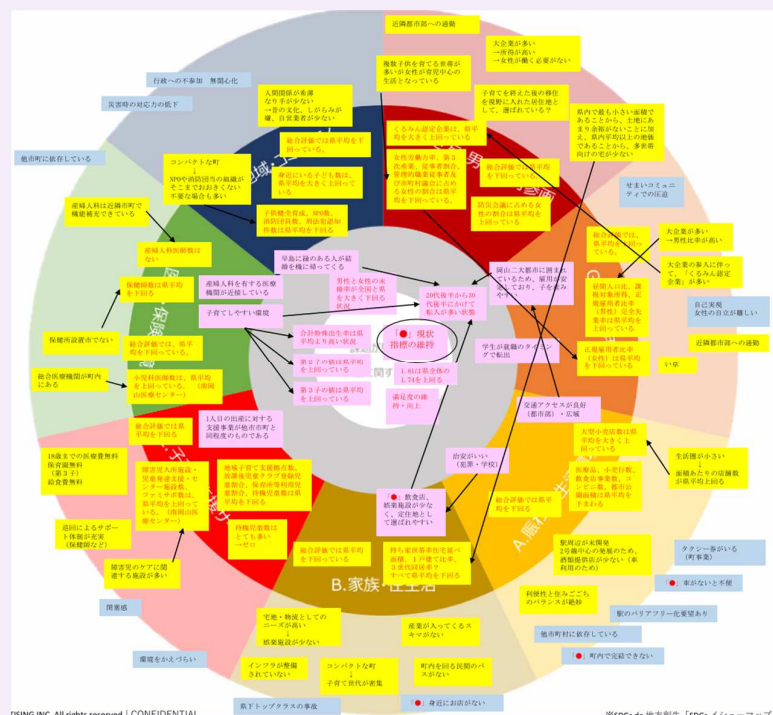
早島町が抱える課題

- 現状、子育てや出産に係る指標は好調であるが、人口増加を社会動態に依存する本町においては、いずれは人口減少に転じることが予想されるため、今のうちに少子化対策を講じておく必要がある。
- 子育て支援施策は、保健・福祉、教育等の複数の課に拡がり、各課を横断した施策の検討を行ったことはなかった。また、エビデンスに基づいた効果的な施策立案の経験が乏しい。



参加目的

組織を横断した施策の検討や客観的根拠に基づく政策立案について、町職員のみではノウハウやマンパワーが不足しており、外部の有識者を含む多角的な視点による総合的な支援を受けることができると考えたため。



見えてきた地域の現状

- 男女の未婚率が全国及び県を大きく下回る
- 20代後半から30代後半世代の転入が多い
- 合計特殊出生率は県平均より高い
- 第2子、第3子の出生率の値は県平均を上回っている
- 身近にいる子ども数は県平均を大きく上回っている
- 昼夜間人口比、課税対象所得、正規雇用者比率（男性）、完全失業率は県平均を上回っている
- 飲食店やコンビニなどの生活関連施設は県平均を下回っている
- 小児科医師数や保健師数は県平均を下回り、産婦人科医師はいない
- 出産等に係る医療機関や生活関連施設が町内に少なく、近隣の二大都市に依存している

着目した地域課題（Day2）

着目した地域課題

早島町は県内二大都市に囲まれるベッドタウンであることから若い世代の流入が多く、子育てに係る指標は、H30～R4年の5か年平均において、合計特殊出生率が1.68と県平均（1.46）を上回っており、未婚率も男性（35.9%）女性（28.7%）と、こちらも県平均（男性48.4%、女性37.2%）と比較し好指標である。

しかしながら、「結婚、出産、子育てに関する県民意識調査」において、本町は結婚や出産に係る指標は好調である一方、子育て世帯をとりまく人々とのつながりや、子育ての幸福感に対する指標が県平均を下回っており、子育てをする中での満足度が低い傾向がみられる。

目指すべき地域の状態

人口流入に伴う各種インフラの限界を見据えた子育て支援を行うことで、子育てを行う若年層世帯が長期的かつバランスよく流入している現状を維持・継続している。

解決を目指す出生に関する指標 合計特殊出生率、子育て世帯の転入数の維持及び継続

その課題に着目した理由

子育てに対する満足度や幸福度向上に加え、県内で最も面積が小さく人口密度が高いという町域の制約を踏まえた移住受入環境の整備が必要であるため。

調査設計

設定した探索の問い

- ・ 長期的かつバランスよく転入者がいるが、現状維持するためにはどのようにすべきか？

調査方法

- ・ グループインタビュー (60分程度)
- ・ デブスインタビュー (60分程度)

調査対象者

- ①早島町の新設保育園に通う子を育てる転入保護者
- ②早島町の新設保育園に通う子を育てる地元で長く住む保護者

主な聴取項目

- | | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ (転入者のみ) 転入時に関して - 転入のきっかけ - 新しい街に引っ越すときに重視したこと - 早島町に期待していたこと・不安だったこと - 早島町に来てからのギャップについて | <ul style="list-style-type: none"> ・ 早島町の子育て環境について - 早島町のコミュニティについて - 魅力に感じる・困ること - 子育てをする町としておすすめしたいか - 子育て支援制度の活用について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内の子育て環境について - 夫への不満 - 子育てのことで頼れる人がいるか - 夫との家事育児も分担について |
|---|--|---|

インタビュー調査での気づき

- ・ 町の子育て支援に係る情報を頼りにしている保護者は多いが、その情報がタイムリーに提供できていない。
- ・ 子育て支援センターが子育ての閉そく感の解消に役立っている。同様の理由で職場復帰を希望する母親も多い。
- ・ 町内で自らが積極的にコミュニティ形成を図ることは少ないが、自治会長など昔から町に住む方から町のことを教えてもらったことが良かったと感じる人が多い



目指すべき地域の状態

若者が住みたいと思う魅力的なまちとなり、結婚や出産につながる世代である「若者」が多くいるまち

住民の声から見えてきた課題の要因①

- ・ マンションや分譲地では近所や地域の方との交流が少ない。
- ・ 夫婦どちらかが早島町にゆかりのある方もおり、コミュニティ格差が生まれている。
- ・ 都市部近郊で居住地を探している方が多い。(条件次第では早島町以外を選択することもある。)

その要因①の解決方向性

- ・ すでにコミュニティが形成されている場所に転入を促すことで、地域の方とのつながりを深くする。
- ・ 転入の際の経済的支援を行うことで、他市町と比較の際の条件がよくなる

参考となる住民の声

転入して来た際に、地域の方に町のことを教えてもらったことがよかった。町内の昔から団地のある自治会では子どもと一緒に楽しめるイベントが多くありうらやましい。

住民の声から見えてきた課題の要因②

- ・ 子育てに関する情報が、的確な内容かつ適切なタイミングで発信できていない。
- ・ 子育ての鬱屈した気分の解消やコミュニティ形成のきっかけとなっている子育て支援センターの存在や活用方法が周知できていない。

その要因②の解決方向性

- ・ 子育て情報に特化した情報発信ツールを活用し、子育てイベントや相談会の情報をタイムリーに発信する。

参考となる住民の声

- ・ 広報誌のような紙媒体の情報を見る時間がないため、検診など適切なタイミングで声をかけてほしい。
- ・ 子育てや子ども向けイベント情報はインスタ(スマホアプリ)を活用して収集している。

住民の声から見えてきた課題の要因③

- ・ 仕事の都合上、子育ての比重が夫婦どちらかに偏っている。
- ・ 子育てに専念することによる閉そく感解消のために社会的な居場所を求めている。
- ・ 共働き世帯が増加していることから子育てに係る経済的な支援が必要。

その要因③の解決方向性

- ・ 子育てと仕事が両立できる環境づくりを支援する。

参考となる住民の声

- ・ 自分も働きに出て、社会に居場所がある方がバランスがよい。
- ・ こどもの送迎やごはんの支度など、どうしても妻側に比重が大きくなるので、夫側も積極的に育児に参加してほしい。

住民の声から見てきた課題の要因①

・マンションや分譲地に住んでいると近所や地域の方との交流は少ない。
・夫婦どちらかが早島町に所縁のある方もおり、コミュニティ格差が生まれている。
・都市部近郊で居住地を探している方が多い。（条件次第では早島町以外を選択することもある。）

開発した事業案

結婚新生活支援事業
（中古住宅改修費助成）

出会いの場創出事業
（駅前拠点施設等での婚活イベント）

住民の声から見てきた課題の要因②

・子育てに関する情報が、的確な内容かつ適切なタイミングで発信できていない。
・子育ての鬱屈した気分の解消やコミュニティ形成のきっかけとなっている子育て支援センターの存在や活用方法が周知できていない。

開発した事業案

子育て応援アプリ等推進事業

住民の声から見てきた課題の要因③

・仕事の都合上、子育ての比重が夫婦どちらかに偏っている。
・子育てに専念することによる閉そく感解消のために社会的な居場所を求めている。
・共働き世帯が増加していることから子育てに係る経済的な支援が必要。

開発した事業案

こどもの見守り環境充実事業
（学校等での早朝時間帯預かり）

給食費・副食費の無償化事業

令和7年度
予算要求事業

今後予算要求
予定の事業

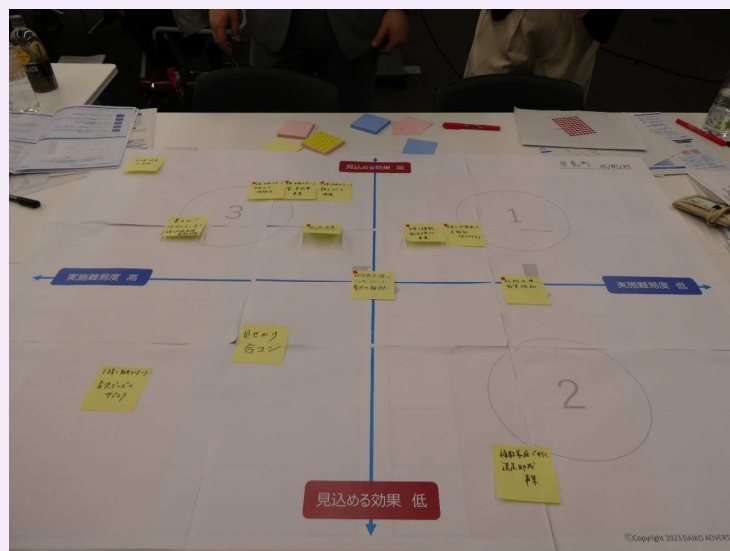
継続して検討
する事業

事業アイデア開発の様子（Day5~6）

Day5 事業アイデア構想の様子



Day6 事業優先順位設定の様子



事業案名 結婚新生活支援事業
事業の趣旨および必要性

本町は、転入ニーズはあるものの、町域が県内で最も狭いことから宅地として供給できる土地には限りがある。そのような中で、これからも若い世代にとって暮らしやすいまちとして発信していくためには、新たな宅地造成を行うのではなく、既存の住宅地の空き家等を利活用し、受入環境を整備する必要がある。また、子育て世帯を対象とした住民ヒアリングにおいて、転入して来た際に地域の方に町のことを教えてもらえたことが良かったという声もあり、地域の方とのつながりによる子育ての閉そく感解消のためにも、既存の住宅地に新たな人が転入してくる仕組みを整え、団地の密度を保つ必要がある。

事業の内容

子育て世帯に対して町内の中古戸建住宅の改修費用の一部を助成する。

補助率 補助率 1 / 2

補助額 補助額：50万円

こども加算額：18歳以下のこどもが2人までの場合、1人につき10万円加算
 （3人以上の場合は、3人目以降1人につき15万円加算）

※補助上限額：100万円

事業案名 子育て応援アプリ等推進事業
事業の趣旨および必要性

子育て世帯を対象とした住民ヒアリングにおいて、子育てに関する情報を、一度に大量のお知らせが発信されることや他の情報と混ざって知られることによって、欲しい情報を欲しいタイミングで的確に受け取ることができないという声があった。子育てに関する情報は子育てイベントや健康診断の他に、子育てに関する悩みを共有するような子育て支援センターの情報もあり、これらの情報を必要としている家庭に届いていない現状を変える必要がある。町では子育てに特化した情報をタイムリーにお知らせすることができる仕組みとして、電子版母子健康手帳である「母子モ」の導入を令和5年度に行っているが、その登録者数は160人程度と少ない。今後、利便性向上を目的として母子モを活用した各種子育て関連申請の電子化や子育て情報発信力の強化を予定しているが、そのメリットを多くの方が受けられるためには、アプリ登録者数を増やす必要がある。また、本町は町域が狭く近隣市町へのアクセスがよいことから、広域で子育てに関する支援が受けられる「ももっこカード」の訴求も効果的である。

事業の内容

子育てに係る支援情報、各種イベント、成長記録等を集約し、パパやママが情報をタイムリーに受け取ることができる子育て応援アプリの機能強化及び普及を推進するため、アプリ内で町の各種オンライン手続きを可能にするなどアプリの機能強化を行い、利便性向上及び訴求力UPを図る。また、子育て応援アプリと併せて県が推進している「おかやま子育て応援パスポート（ももっこカード）」の普及推進を行うため、母子の健康診断時等に専用ブースを設けアプリ登録勧奨やサービス訴求を行う。

事業案名 こどもの見守り環境充実事業

事業の趣旨および必要性

国立研究開発法人建築研究所が出している「自治体別共働き子育て世帯データ集」において、2020年時点の一般世帯全体のうち正社員共働き世帯は、岡山県全体が21.6%に対し本町は27.5%と割合が高い。

子育て世帯を対象とした住民ヒアリングにおいても、育休制度を利用している方が多く、「自分も働きに出て、社会に居場所がある方がバランスがよい」という発言があった。このように経済的・社会的理由から今後も共働き世帯が増加していきことが予想されることから、安心して子育てをするためには、育児と仕事が両立できる環境を町として整える必要がある。

事業の内容

共働き世帯が増えている中、子どもたちにとって安心できる居場所づくりの一環として、学校施設や留守家庭児童会の施設スペースを活用し、平日や長期休暇中の早朝時間帯（7：00～8：00）の子どもの居場所を確保する。

受け入れにあたっては、地域の高齢者等が子どもたちを見守る意識を高めるものとし、地域全体で安心して子育てが行いやすい環境の整備を図る。

事業案名 給食費・副食費の無償化事業

事業の趣旨および必要性

早島町は都市近郊という立地から近年は地価が高騰していることに加え、都市計画法上の規制により大規模マンション開発は駅前エリアだけに限定されていることから転入者のほとんどは戸建てであり、生活に係る経済的負担から共働き世帯が増えていることが予想される。また、物価高の影響で家計が圧迫されている現状や将来の教育費等を考えると、学校教育等に係る費用を抑えたいという保護者のニーズは高い。さらに、給食費・副食費の無償化を行うことで、子育てのしやすいまちとして町内外へのPRとなり、少子化対策や定住・転入促進につながるため、子育て支援以外の副次的な効果も期待できる。

事業の内容

子育てに係る費用を経済的に支援するため、学校や幼稚園の給食費や保育園の副食費を無償化する。

参加してみての気づき・学び・成果

- 客観的な指標を基にした仮説→主観調査等による検証を繰り返すプロセスの重要性を再認識した。
- 組織を横断した施策検討を行うことで、ライフステージに応じた総合的な支援となり、住み続けたいまちの実現になると感じた。

参加してみての課題・苦労点

- 主観調査に協力していただいた町民が多く、様々な意見を収集できた反面、限られた時間での調査だったため、意見の深堀をもう少し行いたかった。
- 課題解決の手法（事業案）について、他市町村事例等も含めてもう少し幅広く検討材料を収集したかった。

令和8年度に向けて

- 今回の勉強会を通じて立案した施策の事業効果をしっかり検証するとともに、より効果の高い内容となるよう事業のブラッシュアップを行う。
- 今回の勉強会を通じて出来たつながりを活かし、県や他市町村との協力体制を構築することで、幅広く情報収集を行うとともに、規模やノウハウなどにより単町では実現が難しい施策検討を行う。
- 今回の内容を全庁的に展開することにより、他の事業においても仮説→検証のプロセスによるEBPMの考え方を浸透させる。

04

令和5年度参加市町の実施状況

矢掛町役場 こどもみらい課
社会福祉士 長代 沙織

矢掛 町

岡山県 矢掛町の概要

ほどよい田舎で住みやすい！歴史ある街並みと自然が溢れる町



総面積

90.62km²

総人口

13,273人 (R6.1.1)

世帯数

5,494世帯 (R6.1.1)

合計特殊出生率

1.59

有配偶率
(25~39歳)

男性 **52.4%** 女性 **38.9 %**

有配偶出生率
(15~49歳)

77.4 (対1000人) (R2)

特徴

岡山県の南西部に位置。旧山陽道の宿場町で、昔ながらの街並みが残っている。近年は観光にも力を入れており、イベント等では観光客の賑わいをみせている。



矢掛町が抱える課題

- 出生数が年々減少し少子高齢化が急速に進行
- 町内に出会いの場が無く、若者も少ない為婚姻数が少ない
- 子どもの数が減ったことにより、子育てで孤立感を抱えている家庭が増加している
- 昔ながらの考えが根強く、今の育児への理解が無い
- 子育て支援＝金 ⇒ 場所・物・人の子育て支援が無い



参加目的

担当業務で、子どもや保護者からの相談を受ける事が多いが、相談を受けても紹介できる社会資源が町内に無い。新しい事業を行うためには、財源が必要…。バックアップ事業に参加する事で、少子化対策と合わせた子育て支援制度の検討ができると考えたため。

地域の現状把握（Day2）

STEP1

STEP2

STEP3

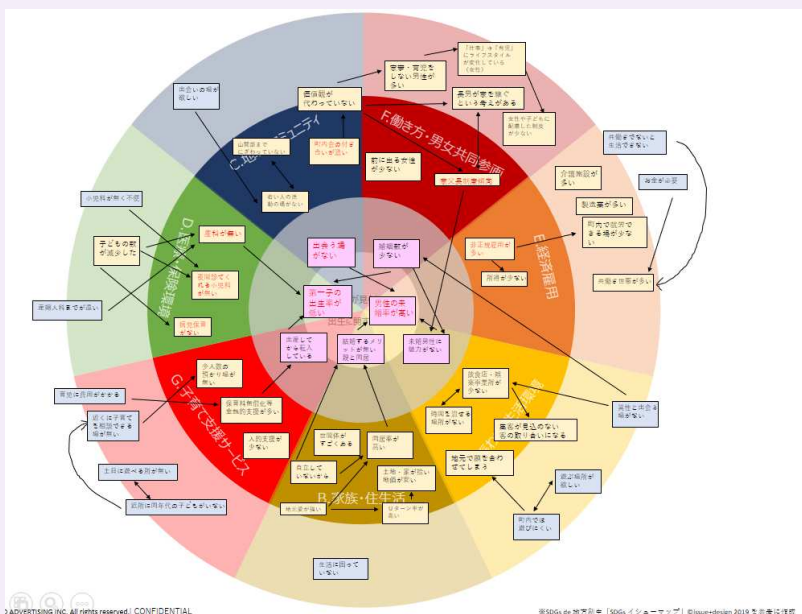
STEP4

STEP5

STEP6

見えてきた地域の現状

- 男性の未婚率が高く、親との同居率が高い
- 町内で出会いの場が無い
- 第1子の出生率が低いが第2子・第3子の出生率が高い
→ 他市町村で第一子を出産後に、子育て支援を求めて矢掛町に転入している
- 昔ながらの考え方が根強い、家父長制
→ 男は外で仕事・女は家事育児をする
世間体強い・「ふうがわりい」
- 子育てにおける人的支援が少ない
- 妊娠期～子育て期の医療体制の不足
→ 町内に産科・病児保育・夜間対応の小児科が無い



着目した地域課題

第1子の出生率は低い、第2子・第3子の出生率が高い。

目指すべき地域の状態

課題のある第1子ではなく、強みのある第2子第3子以上の出生率を伸ばしていく。

解決を目指す出生に関する指標

第一子の出生率が、県・全国平均を大きく下回っている。

その課題に着目した理由

町内に産科が無い為、第1子の出生率を伸ばしていくには課題が多い状況。現状育児をしている方の不満や要望等の声を聴き、もう1人安心して埋めるとしてもらったための支援のありかたを検討することで、子どもの人数を増やす事ができると考えたため。

主観調査の設計および気づき（Day3～主観調査）

調査設計

設定した探索の問い

安心して子どもを産んでもらうにはどのような子育て支援が必要か。

調査方法

グループインタビュー

調査対象者

矢掛町内で子ども1人以上育てている男女
※転入者・地元民、男性・女性それぞれに調査

主な聴取項目

■子育ての実態について

- ・子どもとの過ごし方
- ・子育てをされていて嬉しい瞬間
- ・子育て中の負担・不安
- ・自身の子育てについての評価
- 配偶者との役割分担

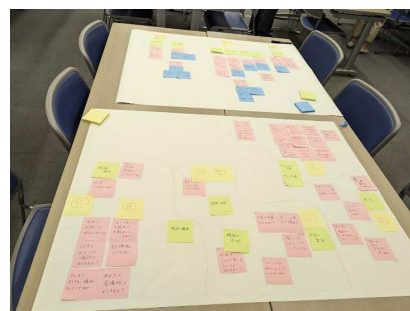
■子どもの人数等について

- ・理想の子ども的人数



インタビュー調査での気づき

- ・矢掛町は色々な施設がコンパクトにまとまっている
- ・父親は経済的不安、母親は育児家事の手の足りなさを感じている
(男性と女性の意識の違い)
- ・転入者は周囲との繋がりが弱く孤独に子育てをしている
- ・家事・育児は「やれるほうがやる」が成功の秘訣
- ・「産む不安」「育てる不安」が強い



目指すべき地域の状態

困った時にいつでも育児支援・家事支援を利用できる環境が整っており、安心して子供を育てることができる環境がある

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

周囲との繋がりが弱く
孤独に子育てをしている

親子がいつでも自由に出入り
する事ができる場所・居場所
が必要

参考となる住民の声

- ・悩みを話せる強制的な場所がある方が嬉しい
- ・土日に支援センターが空いていたらと思う。
- ・ママ友は勝手にできると思っていた。
- ・自分から繋がりを作っていくのは難しい。

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

母親は育児・家事の手の
足りなさを感じている

困った時にいつでも育児支援
や家事支援を利用する事がで
きる体制が整っている環境が
必要

参考となる住民の声

- ・2人で手がふさがっている。3人目は厳しい。
- ・1人で複数の子を見るのは無理。
家事代行を使いたい。
- ・仕事と家事の両立は大変

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

家事・育児はやれるほうがやる

共働きが多く、仕事と育児を
しながら家事が回らない。父親
と母親が協力して育児を行う
環境づくりが必要

参考となる住民の声

- ・我が家の家事は1:9で本当に夫は何もしない。
- ・子ども2人に加えて夫まで育てなきゃいけないんだらうとイライラすることも増えてきた。
- ・夫は子どもと関わってくれる時間を作ってくれば十分。
- ・ちゃんと分担ができてから、不満は無い。

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

親子がいつでも自由に出入り
する事ができる場所・居場所
が必要

開発した事業案

子育て支援センター等での
イベント実施

子育て支援センター日曜日開所

こども食堂の実施

親子の料理教室

高齢者と子育て世帯の交流の場づくり

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

困った時に、いつでも育児支
援や家事支援を利用する事が
できる体制が整っている環境が
必要

開発した事業案

子育て支援サポーターの養成

子育て世帯タクシー券助成

病児保育の整備

やかげnabi（アプリ）の活用

一時預かりの曜日の拡充

住民の声から見てきた解決課題
(対応策の方向性)

共働きが多く、仕事と育児を
しながら家事が回らない。父親
と母親が協力して育児を行う
環境づくりが必要

開発した事業案

家事育児シェアシート作成

パパの半日こども園体験

保育園での弁当販売

パパ育児教室の開催

本資料掲載実施事業

その他の実施事業

事業案名 子育て支援サポーター養成事業

事業の趣旨および必要性

町内で活動している子育て支援サポーター（シルバー人材センター会員）が、家事支援や育児支援のノウハウを学ぶ機会を作り、今後の活動に活かせるよう支援する。
子育て支援サポーターの利用増に向け、受け皿となるサポーターの会員を増やす。

事業の内容

- ▶ 子育て支援サポーターとして活動している人、これから活動していく人に向けた、子育てに関する講座やグループワークを行う。（全五回程度）
内容は、
 - ・今の子育て事情について学ぶ
 - ・家事支援・育児支援についてのノウハウを知る
 - ・サポーター同士の交流を持ち、他の人の活動内容を知る



今後の活動に活かしたり、子育て支援センター開所時の託児等で活動してもらえよう、働きかけていく。

事業案名 子育て支援センター等でのイベント実施事業

事業の趣旨および必要性

土日の親子の居場所づくりや、保護者同士の交流の場を作ることにより、子育てにおける不安感や負担感を軽減させる。矢掛町での子育てが楽しいと感じてもらう。

事業の内容

- ▶ 子育て支援センター等の町内の施設を利用した親子イベントを実施し、交流の場・居場所づくりを行う。
年4回竹を使ったワークショップや昼食作り（羽釜ご飯やソーメン流し）等のイベントを実施
- ▶ 子育て支援センターで母親交流事業を実施
「親子の絆づくりプログラム」を実施し、子育ての悩みや不安を保護者同士で共有する。
（就学前の子を育てている母親向けの育児プログラム 全5回）



※実施については県内NPO法人へ委託



子育て支援センターの日曜日開所や、矢掛町に子育て支援拠点の設置等も検討していく。

- 実施主体：矢掛町（株式会社コネヒトへ委託）
- 父親の家事育児支援、母親の負担軽減のため家族で家事や育児について話合ってもらうためのツールとして作成
作成後は、ワークショップを開催し、普及啓発を実施した。
- 実績
R6.4～7月 シートの内容を検討
8月 完成、ホームページ等で公開開始



11月9日（土）「家族の未来を話そう。実践！家事シェアシート」
ワークショップを開催

課題

作っただけ、になってしまいがち。
様々な人に取り組んでもらう事ができるような仕組み作りが必要



- 実施主体：矢掛町
NPO法人 岡山事務支援センターへ業務委託
講師はNPO法人おかやま妊娠SOSしえるとの助産師へ依頼
- 実績
令和6年6月～参加者募集開始
→栄養委員、民生委員、地区の公民館、愛育委員など
地域で活躍されているシニア世代の方へ足を運び、参加者を募った。
合計14名の方から参加申し込み受付
※年齢層は59歳～88歳 女性13名、男性1名

9月6日（木）～10月日（水）にかけて全5回の講座を実施
受講後は、町長から終了証の交付とシルバー人材センターへの登録を案内

課題

養成後の振り返り、定期的に学ぶ場が必要

令和6年度 新規募集！

矢掛町 子育て支援サポーター 養成講座のご案内

矢掛町ではシルバー人材センターに登録し、新たに子育て支援サポーターとして活動をしてくださる方に対し、全5回1コースの講座を実施します。

子どもが好きな方、子育て支援に関心のある方、シルバー人材センター会員として活動が可能な60歳以上の方の参加をお待ちしています！

子育て支援サポーターって何をするの？

- 矢掛町シルバー人材センターへ登録し、子育て家庭や妊婦さんへの支援（食事作り・掃除・子守り・話し相手など）を行います。
- 活動後、1時間1,090円が報酬としてサポーターさんへ支払われます。（※シルバー人材センターへの年会費1,000円が必要です。）

講座日程

回数	日	時間
第1回	9月5日(木)	10:00～12:00
第2回	9月12日(木)	10:00～12:00
第3回	9月26日(木)	10:00～12:00
第4回	10月2日(水)	10:00～12:00
第5回	10月9日(水)	10:00～12:00

講座内容

- 子育てについての講話
- 母親や子どもへの接し方、コミュニケーション、接遇について
- 助産師さんからの講話や体験など

※詳細は裏面をご覧ください！

会場 矢掛町農村環境改善センター 多目的ホール

対象者 60歳以上で、矢掛町シルバー人材センター会員としての活動が可能な矢掛町民
原則5回全ての講座に参加可能な方

定員 先着20名

参加希望の方は下記申込用紙を、役場こどもみらい課へ提出してください。

お問合せ 矢掛町役場 こどもみらい課
電話：82-1060

子育て支援サポーター 養成講座参加申込書

氏名		年齢	歳
住所	矢掛町		
連絡先			
※どちらかに○をつけてください			
シルバー会員		それ以外	

※申込書は役場 こどもみらい課まで提出してください(締切 8月15日)

日	時 間	科目名	内 容	講師
1日目 (9/5) 木曜日	10:00～ 12:00	矢掛町からの説明	今回の講座の目的等について	こどもみらい課 長代
		はぐむ心と命	子育てを支援する人に求められるもの	おかやま妊娠しえと SOS 理事長・助産師 小林 智子
		現在の妊娠・出産事情	最近の妊娠・出産状況とそれをめぐる問題点	
2日目 (9/12) 木曜日	10:00～ 12:00	妊娠期・産後に配慮したい事	産後の母親の心理状況と育児不安、周囲が配慮する事	おかやま妊娠しえと SOS 副理事長・助産師 長谷川 喜久美
		子育ての昔と今	昔の子育てとの違いと最近の育児状況	
3日目 (9/26) 木曜日	10:00～ 12:00	赤ちゃんをみる	赤ちゃんの健康と観察のポイント、病気の時の対応	おかやま妊娠しえと SOS 助産師 高岸 純子
		子どもへの安全対策	家庭で多い子どもの事故と対応、家庭の中での安全対策	
4日目 (10/2) 水曜日	10:00～ 12:00	子育てで知って欲しい事	こどもの遊びとコミュニケーション	おかやま妊娠しえと SOS 理事長・助産師 小林 智子
		おかあさんに寄り添って	育児期の母親への接し方	
5日目 (10/9) 水曜日	10:00～ 12:00	接遇、コミュニケーション	話し方、ロールプレイ等	おかやま妊娠しえと SOS 副理事長・助産師 長谷川 喜久美
		シルバー人材センター、子育て支援サポーターについての説明 終了証交付	シルバーへの登録の流れについて 修了証書授与 子育て支援サポーターの活動について	矢掛町シルバー 池田 局長 山岡町長 こどもみらい課 長代

【参考】 矢掛子育て支援サポーター派遣事業について

令和5年4月1日から制度開始

- ▶ 実施主体：矢掛町（矢掛町シルバー人材センターへ事業委託）
- ▶ 委託内容：家事支援、育児支援、子育て相談
元々は、ヤングケアラーへの支援や虐待予防を目的として開始したが...
- ▶ 実績
R5年度：申請者4名 利用1名
内容：妊婦検診への同行
R6年度：申請者5名 利用3名
内容：引っ越し手伝い、乳児の見守りなど

課題1

利用者（子育て世帯）と子育て支援サポーター（シルバー登録者）とのマッチングが上手くいかない

課題2

シルバー人材センターの登録者が少ない...

→ バックアップ事業で出た課題や住民の声とも課題が一致

矢掛町子育て支援サポーターのご案内

矢掛町では、育児・家事等に困難を抱えている家庭を対象に子育て支援サポーターの派遣を行っています。

支援内容

1. 家事支援（買い物、調理、掃除等）
2. 育児支援（沐浴補助、オムツ替え補助等）
3. 子育て相談

※子どもの送迎は対象外です。

利用料・利用時間

- ▶ 料金：1時間あたり、500円
（1回の訪問につき2時間まで、1家庭20回まで）
※買い物等で発生した費用は、利用者の自己負担
※生活保護世帯は無料
- ▶ 時間：月～日曜日 8:30～17:00（要相談）
年末年始（12月29日～1月3日）は除く

対象者

- ▶ 矢掛町に住所があり、産前産後（産後1年未満）の妊産婦のいる家庭
- ▶ ひとり親、保護者の心身の病気・疾病等を有する家庭
- ▶ 他の親族の援助等が受けられず、育児等に困難な事情を抱える家庭

※申請時に詳しく聞き取りを行います。

注意事項

- ▶ この事業は、子どもを養育されている保護者の子育て支援を目的としています。
- ▶ 保護者がご不在の状態で、サポーターが1人で子どものお世話や子守り等をすることはできません。

事前に役場健康子育て課で利用相談・申請が必要です。
利用決定後打ち合わせ等を行い、利用開始となります。
（※家庭状況等によって、利用ができない場合があります。）

- ▶ 実施主体：矢掛町（NPO法人こうのさとへ事業委託）
- ▶ 委託内容：こどもみらい学校 竹を使って親子で遊ぼう！inやかげ
竹を使ったワークショップ
保護者同士・参加者同士の交流の場を作る
- ▶ 実施場所：桃源郷はなしの里（矢掛町上高末）
- ▶ 実績 令和6年5月～12月にかけて年4回のイベントを実施

第1回目： 6月 1日（土） 竹コップ、はし、竹ぽっくりづくり
第2回目： 7月20日（土） 竹の水鉄砲、竹で流しそうめん
第3回目： 9月21日（土） 竹灯籠づくり
第4回目： 12月21日（土） 竹で門松作り、餅つき

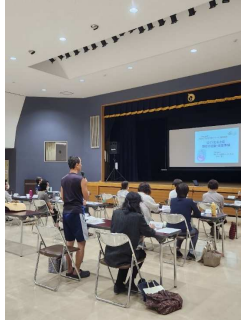
課題

事業の効果検証及び、来年度以降の実施方法等についての検討が必要

- ▶ 実施主体：矢掛町（NPO法人きよね夢てらすへ事業委託）
- ▶ 内容：親子の絆づくりプログラム～幼児とともに！～
就学前の子を持つ母親向けの講座を全5回実施
（保護者同士の交流や仲間づくり、子育ての相談
子育てについての悩みについての共有など・・・）
- ▶ 実施場所：矢掛町子育て支援センター
- ▶ 令和6年11月～12月にかけて全5回の講座を実施
町内の母親4名が参加
- ▶ その他：実施にあたり、託児が必要（こども2人につき保育者1名）
町職員だけでは対応困難だったため、地区の愛育委員へ依頼。
1回の講座につき2名の愛育委員がボランティアとして従事

課題

こどもが1歳を超えると、就労開始している保護者が多く参加者の確保が困難だった。開催曜日や回数をしっかり検討して実施する事が必要。



令和7年度に向けて

- ・NPO法人に業務委託したが、入札等事務手間の負担が大きかった為、継続的な実施が難しいケースが多数みられた。
- ・今年度実施した事業の効果検証を行う。現時点で、現代の子育てについて関心のあるシニア世代が一定数いる事が判明したため、孫育て講演会や、同様の講座の実施、孫育て手帳の更新等を検討する。
- ・子育て世帯の居場所づくりや、料理教室等、子育て世帯以外を巻き込んだ事業を検討していく。
- ・病児保育、こどもの送迎支援等、課題は山積み...
予算やニーズを把握しながら、効果的な施策が実施できるよう検討していく。



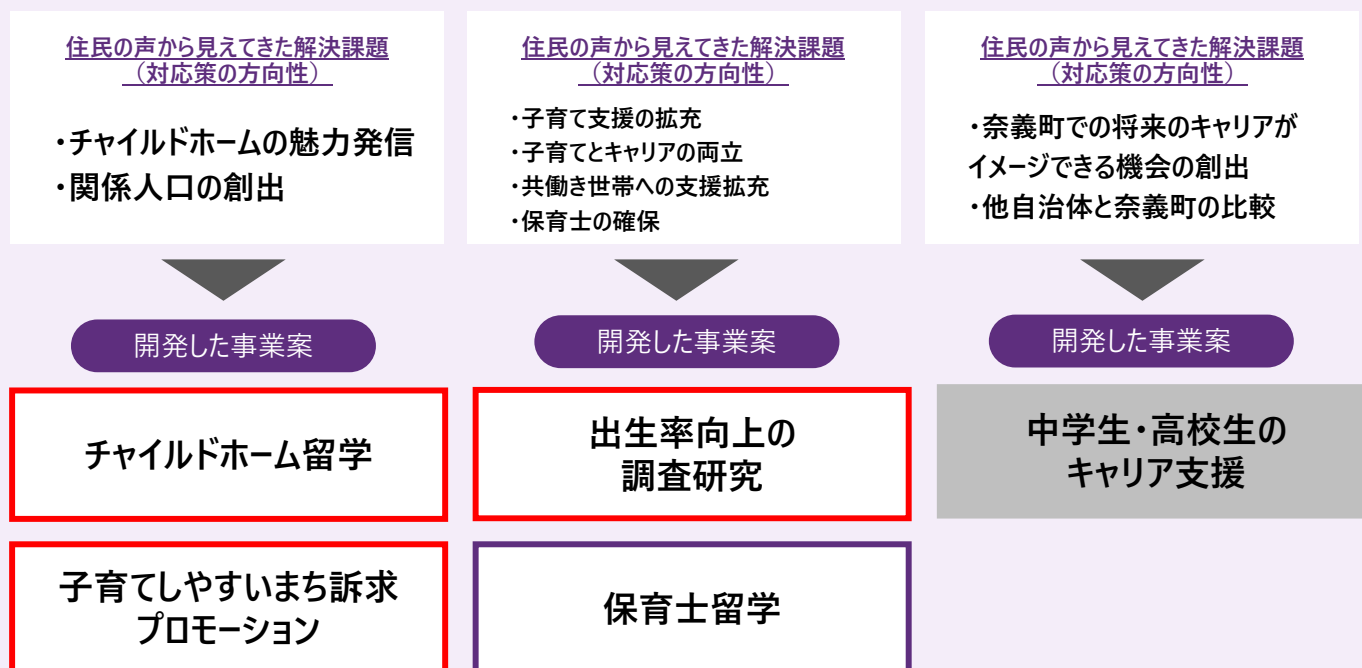
奈義町

奈義町は岡山県北東部に位置し、北は鳥取県との県境になっています。標高1,250mの那岐山がそびえる自然豊かな町であり、奈義町現代美術館や江戸時代から伝わる農村歌舞伎「横仙歌舞伎」など、アートと文化が息づく町でもあります。

総面積	69.52km ²
総人口	5,734人（R5.12.1現在）
世帯数	2,538世帯（R5.12.1現在）
合計特殊出生率	2.68（R3）
未婚率 （25～39歳）	男性 52.6% 女性 31.7%（R4）
有配偶出生率 （15～49歳）	109.0
特徴	中心部から半径2kmに人口の8割が定住するコンパクトシティ



最終事業案（Day5）



事業名 チャイルドホーム留学

事業の趣旨

- ・なぎチャイルドホームは、地域ぐるみの子育て支援を実践する施設であり、子育て世帯のコミュニティを形成し、子育てに安心感を与えている。
- ・他県在住の親子に、チャイルドホームの取組を体験してもらい、併せて自然豊かな奈義での暮らしを体験することで、本町で暮らす魅力を伝え、関係人口の拡大、さらには移住者の獲得につなげることを目指す。

事業の内容

- ・他県在住の親子をターゲットに、短期滞在ツアーを実施し、滞在中、なぎチャイルドホームの子育て支援、親子交流体験を提供する。
- ・町内の空き家に滞在し、奈義町の生活も体験してもらう。
- ・体験内容をInstagram等のSNSで発信。

事業の実績

- ・R6.4～R6.7 受入体制検討、ツアー内容調整
- ・R6.7～ 広報、募集受付開始
- ・R6.11 山口県在住の親子のチャイルドホーム留学を実施
⇒ 来年度の本格実施に向けて改善点、準備事項等が明確化



事業名 子育てしやすいまち、気運醸成を訴求するプロモーション

事業の趣旨

- ・奈義町の子育て応援の様々な施策や施設、取組み、奈義町で子育てをされている方、子育てを応援されている方々などを中心に紹介する子育てPR動画、PR冊子撮影を通じて、町の子育て世帯のシビックプライドを醸成するとともに、町外に子育ての魅力を発信し、交流人口の増加、移住定住につなげる。

事業の内容

- ・奈義町の子育てとの親和性が高い案内人として、結婚・出産を機に、地元へUターンして子育てと仕事を両立するフリーアナウンサー 中野美奈子さんに出演を依頼。
- ・製作したPR動画、PR冊子は、これまでアプローチが不足していた都市部の若い世代を対象とした広報プロモーションとして活用する。

事業の実績

- ・R6.10 事業者選定プロポーザル
- ・R6.11 コンテンツ検討
- ・～R7.3 ロケの実施、動画、冊子製作（進行中）



案内人：中野美奈子さん
香川県丸亀市在住。フジテレビを退社後、2児の母として子育てと仕事を両立しながら、現在はフリーアナウンサーとして幅広く活動

事業名 出生率向上の調査研究

事業の趣旨

- ・奈義町は令和元年に合計特殊出生率2.95を記録する等、高い出生率を維持しているが、その客観的要因が解明されていない。
- ・高い出生率の要因を解明することで、より効果的な少子化対策につなげるとともに、取組のヒントとして他自治体への横展開も図りたい。

事業の内容

- ・出生率向上の要因について、明治大学政治経済学部 鎌田准教授を分析官として任命し、行政による子育て支援内容だけでなく、人口学に基づいた調査を行う。
- ・調査から得られたデータをアカデミックに分析、検証し、結果を報告書として公表する。



明治大学政治経済学部 鎌田 健司 准教授
(令和6年5月 奈義町出生率要因分析官に任命)

事業の実績

- ・R6.9～R6.12 子育て世帯への全数アンケート調査及び解析
- ・R6.7～ 国勢調査（総務省）、人口動態調査（厚生労働省）の2次利用申請及びデータ解析
- ・R7.1 奈義町主催の全国子育て応援会議にて、中間成果の発表を実施
- ・R7.3 町の子育て世帯などを対象としたフィールド調査を実施。年度末までに調査結果の報告会を実施予定

今後に向けて

令和7年度に向けて

- ・ 次年度の事業展開等
 - 出生率向上の調査研究
 - ⇒ 鎌田准教授の出生率要因分析レポートの展開版を作成、視察や町民向け説明資料として活用
 - チャイルドホーム留学
 - ⇒ 多様な移住の希望に応じたオーダーメイドツアーのパターンとして組み込み、ツアー実施回数増を図る
 - 子育てしやすいまち、気運醸成を訴求するプロモーション
 - ⇒ SNSや有料広告、ふるさと納税等と組み合わせた広報を実施
- ・ 事業を実施して得られたこと
 - 大学や子育て世帯の当事者等と協働で実施することの重要性
 - ⇒ 行政が施策推進する上でのパワー不足、外部からの評価、視点による新たな気づき
 - 一つの施策がダイレクトに少子化対策につながるわけではない
 - ⇒ 政策説明の難しさ、若い世代の取り巻く環境の全体的な底上げが必要

令和7年度に向けて

更に追及したいテーマ

結婚の希望を叶える更なる支援

⇒従来の「出会いの場の提供」の企画段階から若い未婚者が参画する取組を検討

若い世代が移住できる環境の整備

⇒単身者用の賃貸住宅や若い世代が交流もできる宿泊施設等の整備を検討

合計特殊出生率の人口学的要因分解：まとめ

2000年以降の奈義町の出生力は2005年を底に上昇傾向

- 堅調な結婚要因のプラスの寄与
 - 全国に比べ、平均結婚年齢は3歳程度低い
 - 平均結婚年齢は上昇傾向
 - 24.8歳(2000年)→28.2歳(2020年)
 - 晩婚化が進み、出生力のピークが30代へ

2010年以降は夫婦の出生力の上昇が出生力の高さを下支え

- 全期間を通して、第3子の寄与が大きい
- 2020年では、夫婦出生力の寄与は全体の半分程度まで上昇
- とくに第2子と第3・4子など多子割合の上昇が出生力上昇に影響



鎌田准教授 作成
奈義町出生率分析レポート（抜粋）

事業を実施してみて課題に感じていること など

データやヒアリングから課題を考え、必要な施策を検討する、という基本的な手法の重要性を改めて認識した。
次年度以降に事業継続させるためにも、財源面を含めた、国、県のバックアップを引き続きお願いしたい。

市町村バックアップ事業と
キーパーソン派遣事業における
美咲町の取組について

美咲町

岡山県の中央部やや北に位置し、東部には岡山県三大河川の吉井川が、西部には旭川が流れ、久米郡最高峰の二上山(689.1m)をはじめとした山間地が続く、中山間地域です。

総面積	232.17km ²
総人口	12,881人 (R5.12.1)
世帯数	5,923世帯
合計特殊出生率	2.23 (R3)
未婚率 (25~39歳)	男性 54.5 % 女性 34.4 %
有配偶出生率 (15~49歳)	72.1%
特徴	第1子の合計特殊出生率は県内2位であるが、第2子、第3子以降が低くなっている



市町村バックアップ事業とキーパーソン派遣事業

R5 ~

市町村バックアップ事業とは

実施主体：岡山県と市町村
少子化の要因を分析し、オーダーメイド型で対策を検討する事業

R6 ~

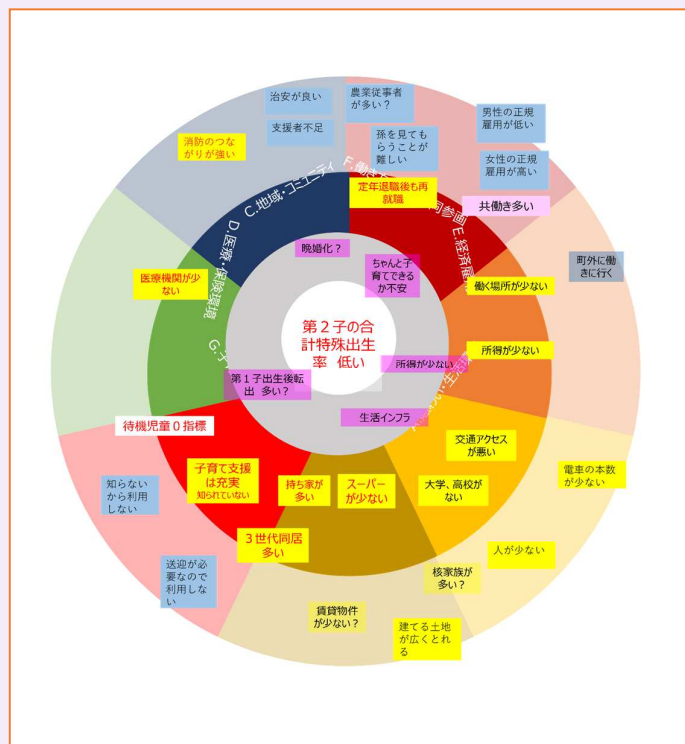
キーパーソン派遣事業とは

実施主体：経済産業省
地域課題を発見し、その課題に応じた適切なキーパーソン(人材)を派遣し、地域活性化を図る事業

- ・ こどもの数が少ない
- ・ 高齢化率が高い
- ・ 人口減少が続いている
- ・ 少子化に対して横断的な取り組みができていない
- ・ 少子化に対する客観的指標による分析ができていない
- ・ 町内に就業先が少ない
- ・ 町内に買い物のできる場所が少ない

子育てに必要な取組を客観的データをもとに考察し、少子化対策施策を検討する

 美咲町
Misaki Town Web Site



- ・子育て支援者(成り手)不足
- ・働く場所が少ない
- ・男性の正規雇用率が低い
- ・所得が少ない
- ・交通アクセスが悪い
- ・高校・大学がない
- ・スーパーが少ない
- ・医療機関が少ない
- ・治安がいい
- ・消防のつながりが強い
- ・女性の正規雇用率が高い
- ・共働き世帯が多い
- ・持ち家率が高い
- ・子育て支援は充実(?)

着目した地域課題

第1子の合計特殊出生率の高いのに、第2子の合計特殊出生率が低い

目指すべき地域の状態

- ①子育て施策を知っている ②経済的不安をなくす
- ③支援体制を充実させる(“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境)

解決を目指す出生に関する指標:第2子の合計特殊出生率を上げる

その課題に着目した理由

子育て施策は充実している(はず)なのに、第2子の合計特殊出生率が低いから。

少子化における課題

目指すべき地域の状態

“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

住居の確保への不安

参考となる住民の声

家を建てたくても土地がないって
言っている人をたくさん聞く。

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

子育てについての相談・ 情報収集がづらい

参考となる住民の声

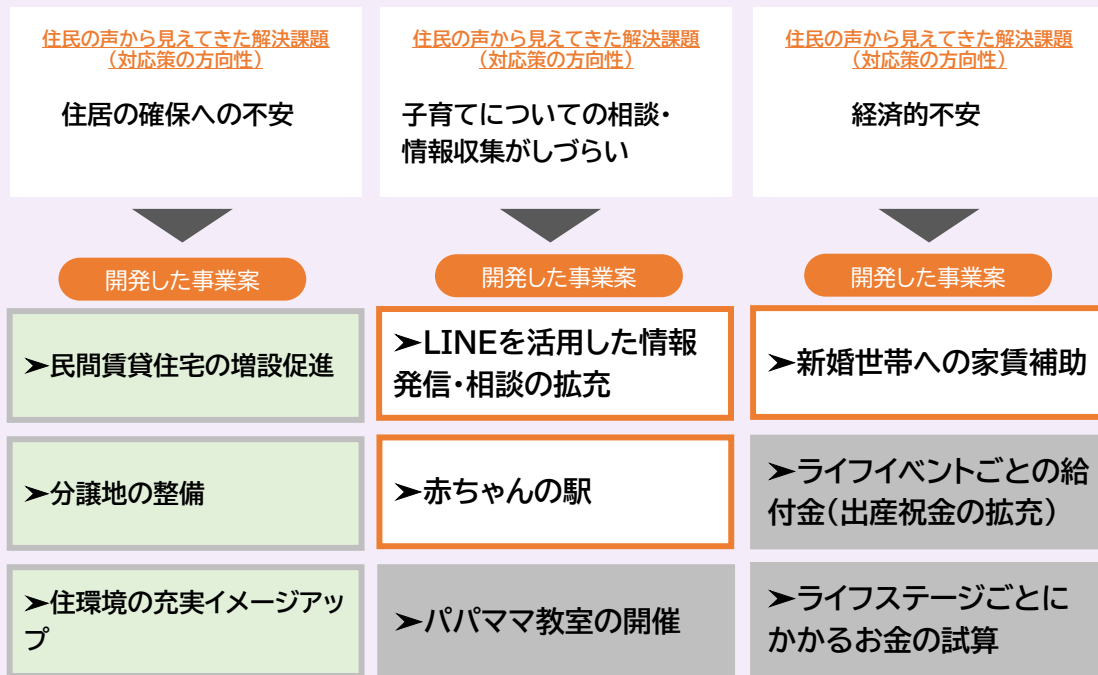
- ・夫が保育園のことなど全く知らず、
興味すらもってくれない
- ・美咲町は情報が調べにくく近隣市
町は1枚紙で理解しやすかった

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

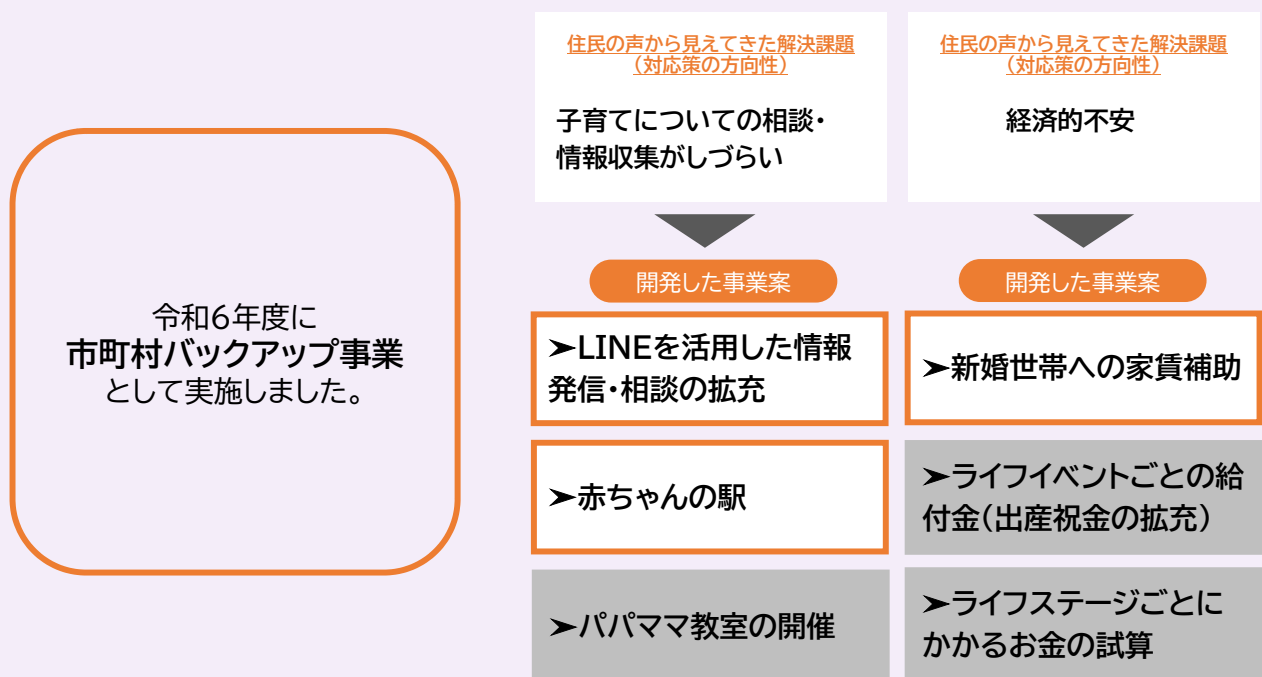
経済的不安

参考となる住民の声

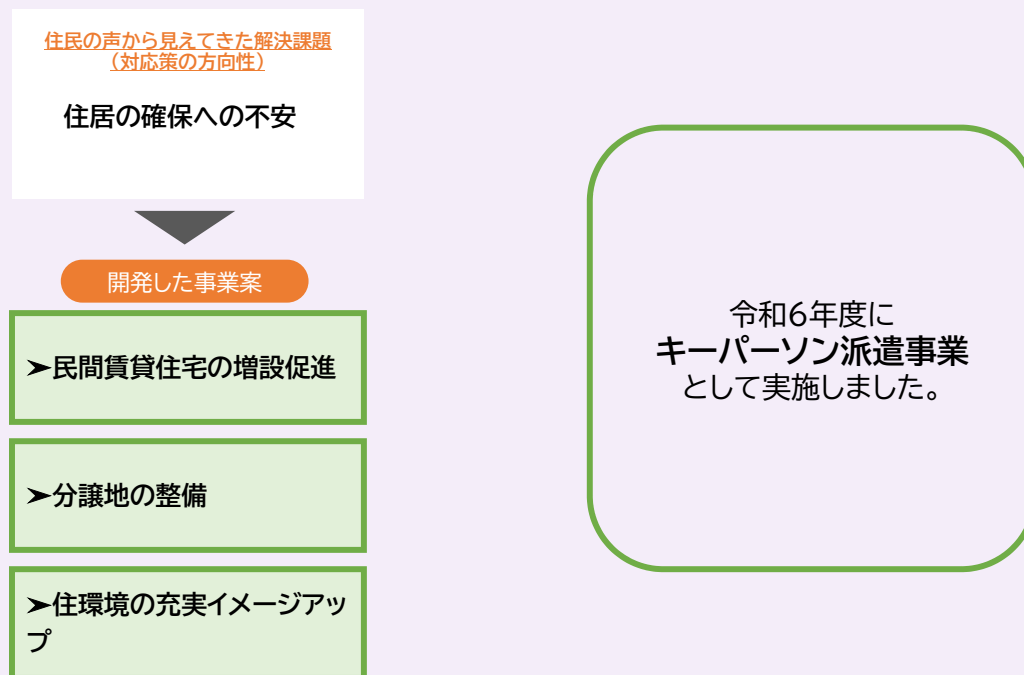
仕事を復帰したい気持ちがあったが、
3人目もでき復帰できなかった。た
だ金銭的に不安もあるため、どのタ
イミングで仕事をし始めるか悩んで
いる。



※オレンジ色の枠で囲っているアイデアを今年度は予算要求準備中



※オレンジ色の枠で囲っているアイデアを今年度は予算要求準備中



令和6年度 実施事業①



事業名 LINEを活用した情報発信・相談の拡充

事業の趣旨

LINEを通じた情報発信・相談を行い、情報不足から生じる不安の解消につなげる。

事業の内容

LINEを通じた情報発信により、登録した人の属性に応じて関心のある内容をプッシュで送信することで、既存情報へのアクセスを容易にする。

必要な情報へつなげ、制度を活用してもらい、制度を知らないことによる不安感の低減をはかる。また、母子モヤもっこアプリと連携し、子育て世代の利便性向上に貢献する。

事業の実績

LINEを通じた情報発信を強化し、のべ160回発信(2月末時点)。母子モヤもっこカードと連携したほか、LINEからの相談を可能とし、LINEのなかで、年齢ごとに使える子育て支援施策を調べられるようにした。



事業名 赤ちゃんの駅設置事業

事業の趣旨

赤ちゃんの駅(だれでも自由におむつ替えや授乳ができるスペース)を整備し、乳幼児連れの世帯が外出しやすい環境を整える。親子で外出し、集まれる機会を創出する。

事業の内容

赤ちゃんの駅の改修と可動式赤ちゃんの駅の導入、及びステッカーによる周知

【授乳室・おむつ交換台設置のための改修】

柵原鉱山資料館

【可動式赤ちゃんの駅の整備】

本庁、各支所に1セットずつ

事業の実績

柵原鉱山資料館に赤ちゃんの駅を設置。

赤ちゃんの駅ガイドラインを作成しました。



事業名 結婚新生活支援事業

事業の趣旨

結婚に伴う新生活を経済的に支援するため、新規に婚姻した世帯を対象に行う事業。
住宅取得費用/住宅リフォーム費用/住宅の賃借費用/引越し費用を補助するもの。

事業の内容

【対象となる世帯の要件】

新規に婚姻した世帯であって、夫婦ともに婚姻日における年齢が
39歳以下かつ世帯所得500万円未満の世帯

【補助上限額(1世帯あたり)】

夫婦ともに29歳以下:60万 それ以外:30万

【補助率】

都道府県主導型市町村連携コース 補助率 2/3

事業の実績

夫婦ともに29歳以下:2組

それ以外:3組



キーパーソン派遣事業って？

経済産業省が実施する、地域課題を発見し、その課題に応じた適切なキーパーソン(人材)を派遣し、地域活性化を図る事業

参加した目的

令和5年度に岡山県少子化対策市町村バックアップ事業に取り組み、見えてきた課題に対し、その根拠は何か、どのように施策に結びつけていくか、など深掘りが必要と考えました。

しかし職員のみで行うには能力、時間共に限界があり、専門家(人材)の支援が必要と判断し、この事業に取り組むこととしました。

キーパーソン(アドバイザー)

アドバイザー

西尾 真治 氏 (にしお しんじ)

三菱UFJリサーチ & コンサルティング
政策研究事業本部 地域政策部 自治体経営グループ 主任研究員



EBPMの専門家として、本事業にご協力をいただきました。

EBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング。証拠に基づく政策立案)とは、政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで合理的根拠(エビデンス)に基づくものとすることです。

着目した地域課題

第1子の合計特殊出生率が高いのに、第2子の合計特殊出生率が低い
（“ちゃんと”子育てできるか不安に感じている子育て世帯が多いから？）

目指すべき地域の状態

- ①子育て施策を知っている ②経済的不安をなくす
- ③支援体制を充実させる（“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境）

解決を目指す出生に関する指標: 第2子の合計特殊出生率を上げる

その課題に着目した理由

子育て施策は充実している（はず）なのに、第2子の合計特殊出生率が低いから。

仮説の設定

着目した地域課題

第1子の合計特殊出生率が高いのに、第2子の合計特殊出生率が低い
（“ちゃんと”子育てできるか不安に感じている子育て世帯が多いから？）

仮説①

第1子出産後に
転出？

仮説②

第2子を
出産しない？

仮説③

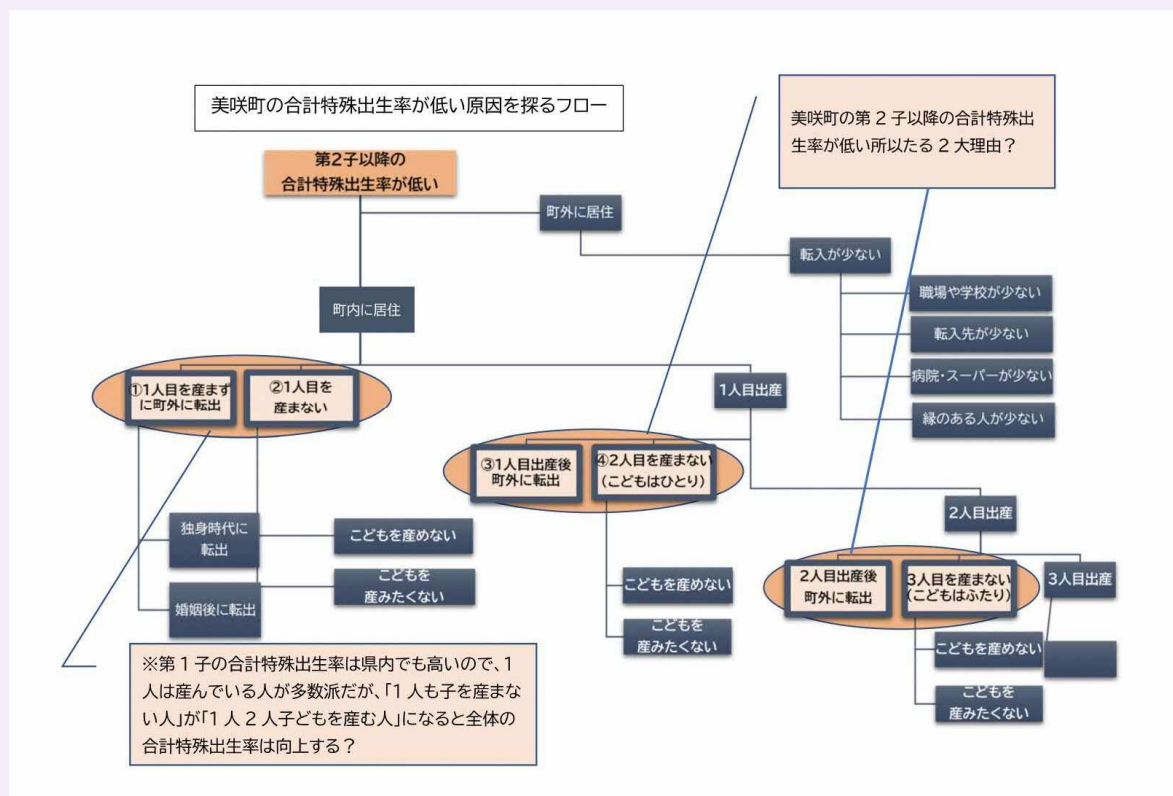
第1子出産前に
転出？

仮説④

転出超過が
影響？



仮説について、ロジックツリーを作成し、データによる裏付けを行いました



少子化における課題

目指すべき地域の状態

“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

住居の確保への不安

参考となる住民の声

家を建てたくても土地がないって言っている人をたくさん聞く。

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

子育てについての相談・情報収集がづらい

参考となる住民の声

・夫が保育園のことなど全く知らず、興味すらもってくれない
・美咲町は情報が調べにくく近隣市町は1枚紙で理解しやすかった

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

経済的不安

参考となる住民の声

仕事を復帰したい気持ちがあったが、3人目でもでき復帰できなかった。ただ金銭的に不安もあるため、どのタイミングで仕事を始めるか悩んでいる。

目指すべき地域の状態

“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

住居の確保への不安

参考となる住民の声

家を建てたくても土地がないって
言っている人をたくさん聞く。

賃貸物件は
足りている？

価格設定は
適当？

分譲地は
足りている？

物件は
探しやすい？

空家のニーズ
は？

目指すべき地域の状態

“ちゃんと”子育てできるか不安にならない子育て環境

情報収集はど
うやってして
いる？

子育て当事者
の実感は？

住民の声から見えてきた解決課題
(対応策の方向性)

子育てについての相談・
情報収集がしづらい

参考となる住民の声

・夫が保育園のことなど全く知らず、
興味すらもってくれない
・美咲町は情報が調べにくく近隣
市町は1枚紙で理解しやすかった

制度を「知っている」状態に。

不安の解消

事業名 転入・転出アンケートの刷新

事業の趣旨

転入・転出される方のニーズを把握し、美咲町が行っている現行の事業について検討する。

事業の内容

従来、移住定住施策のために簡易的に行っていた転入・転出アンケートの見直しを行い、より収集する情報が美咲町の事業に役立つように修正を行いました。

【今後の方向性】

収集したデータを分析することで、住民のニーズに合致した施策を展開していきたい。
地域に還元し、美咲町の小規模多機能自治を後押しできるような情報収集がしたい。

事業名 暮らしの補助制度の発信

事業の趣旨

暮らしの補助制度について集約し、探しやすくすることで、美咲町を居住地の候補にしてもらう。

事業の内容

暮らしの補助制度を整理し、チラシを作成し、HPや不動産業者等を通じて美咲町周辺に住むことを検討している世代に発信する。

【目的】

お家を建てる・借りる・買う・リフォームする場合に使える制度について、周知することで「情報を知らない」状態を「情報を知っている」状態にする。
➤イメージアップ+制度の活用➤実際に美咲町に住んでもらう

【事業ターゲット】

- ・不動産業者(間接)
- ・町民ほか近隣に居住する者(直接)

令和7・8年度に向けて

【次年度の事業展開等】

- ・子育て支援施策 保育園の先生に対する啓発活動
- ・転入・転出アンケートの分析 現行の制度の効果検証
- ・“暮らし”の補助制度についての発信
- 令和8年度事業の展開についての検討

【事業を実施して得られたこと】

数値を確認してみて、仮説を論拠にすることができた。

【更に追及したいテーマ】

住居についてのデータ収集

【事業を実施してみて課題に感じていること】

- ・ 仮説を実証するためには、データと時間が必要。
- ・ チームで実施することで、課を超えた取組を行う事ができた。

ご清聴ありがとうございました！



こどもの笑顔は
みんなの幸せ
みさきタウン

こどもの笑顔が
あふれるまちは
みんなに優しく
幸せになれる町。

みんなで
ささえあい
きょうりょくする

赤ちゃんから若者、
そして子育て世帯のみなさんまで。
美咲町は全力で
みさキッズの成長を支えます！

岡山県 子ども・福祉部 子ども未来課

野村 Mail : takamasa_nomura@pref.okayama.lg.jp

山形 Mail :shinsuke_yamagata@pref.okayama.lg.jp

花房 Mail :riyousuke_hanafusa@pref.okayama.lg.jp

岡山県岡山市北区内山下2-4-6 Tel : 086-226-7347